

特定非営利活動法人 ふうどばんく東北 AGAIN

# 平成 29 年度 事業報告書

第 9 期

平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日

平成 30 年 6 月 25 日 通常総会

## 目次

1	平成 29 年度 事業総括.....	1
2	フードバンク事業.....	1
2.1	概要 .....	1
2.2	支援方法 .....	3
2.3	支援実績 .....	4
2.3.1	支援人数.....	4
2.3.2	支援件数.....	5
2.3.3	支援方法別(人数) .....	5
2.3.4	支援総重量.....	6
2.3.5	支援方法別(重量) .....	6
2.3.6	困窮種別(件数).....	7
2.3.7	困窮種別(人数).....	7
2.3.8	年齢別(人数) .....	8
2.3.9	地域別(支援人数) .....	9
2.3.10	地域別(支援件数) .....	10
2.3.11	利用回数別(件数) .....	11
2.3.12	困窮事由別(件数) .....	11
2.3.13	支援要請 男女比(件数) .....	12
2.3.14	世帯人数割合 .....	12
2.3.15	世帯構成.....	13
2.3.16	ライフラインの状況 .....	13
2.3.17	食料寄贈(件数).....	14
2.3.18	食料寄贈(品目別) .....	14
2.3.19	食料寄贈(地域別) .....	15
2.4	連携団体一覧(102 団体).....	16
2.5	企画イベント等実績.....	17
2.5.1	フードドライブ.....	17
2.5.2	フードボックス設置 .....	17
2.5.3	生活困窮者への食事提供「AGAIN 食堂」.....	18
2.5.4	講演会活動.....	18
2.5.1	参加研修.....	18
2.6	マスコミ掲載 .....	18
2.7	政策提言 .....	20
2.8	行政との意見交換.....	20
2.9	計画と実施状況.....	20

<b>3</b>	<b>就労移行支援事業「就労サポートセンターあがいん」</b> .....	<b>22</b>
3.1	概要 .....	22
3.2	就労サポートセンターあがいんの様子 .....	24
3.3	研修参加 .....	26
3.4	計画と実施状況.....	28
<b>4</b>	<b>組織体制等</b> .....	<b>29</b>
4.1	計画と実施状況.....	29
4.2	会員・ボランティア .....	30
4.2.1	会員数 .....	30
4.2.2	登録ボランティア.....	30
4.3	情報発信 .....	30
4.4	役員 .....	31
4.5	事務局.....	31
<b>5</b>	<b>理事会・総会</b> .....	<b>31</b>
5.1	通常総会 .....	31
5.2	理事会.....	31
<b>6</b>	<b>助成金・寄付金</b> .....	<b>32</b>
6.1	助成金.....	32
6.2	寄付金.....	32

## 1 平成 29 年度 事業総括

平成 28 年 10 月に富谷市に事務所を移転の後、昨年度は職員の増員や組織体制の整備など、団体の基盤拡充を行ってまいりました。これまで進めてきたフードバンク事業に加え、平成 29 年 5 月からは就労移行支援事業もスタートさせ、全国で初めてのモデルとなる障害のある方のフードバンク活動への参加も実現しています。これらの施策により、昨年度の食糧支援延べ人数は、13,027 名、支援総重量で 45.15 トンにのびりました。これは、生活困窮者への支援の面からみても、また食品ロスの面からみても、非常に意義のある大きな成果を達成したと言えると思います。

また、就労移行支援事業でも、現時点で通所者 5 名、見学または検討中の方 6 名と着実に利用者数をのばしています。

活動の範囲が広がりとともに、他団体との連携も進んだ年でした。これまで連携してきた福祉支援団体に加え、富谷市や仙台市などの自治体さんとの協働イベントや、大手企業さんからの食料・資金の援助など従来にも増して大きな連携が生まれつつあります。また同時に新聞・テレビ・雑誌などで活動状況が取り上げられたり、各地のセミナー・勉強会での講演などの機会も増えてまいりました。

このような活動紹介を通じて、企業・団体をはじめ、多くの一般市民の方にフードバンク活動を知ってもらうことができ、この結果、食品の寄贈やボランティアとしての参加など、地域を巻き込んだ活動の輪が広がっています。活動範囲の広がりとともに、当団体に期待されること、やらねばならないことも大きくなっていると感じています。役員・職員が一丸となって、この期待に応えられるように活動を進めて行きたいと考えています。

## 2 フードバンク事業

### 2.1 概要

平成 29 年度に食糧支援した人数は、延べ 13,027 名にのび、その支援重量は 45 トン以上になりました。この数は、当団体が昨年度に食糧支援した述べ約 10,000 名の約 1.3 倍にもなる支援人数となり、提供した食糧の重量も、昨年度の約 8 トンから、約 6 倍の量となります。これは、生活困窮者への支援の面からみても、また食品ロス・環境問題の面からみても、非常に意義のある、大きな役割と成果を達成したと言えると思います。この数からも、ますます生活困窮者への食糧支援のニーズが高まっていることが分かります。平成 29 年度の、被災困窮者への食糧支援は延べ 5,921 名となり、全体の 45%にのびりました。この数字をみても、東日本大震災から 7 年が経過する今も被災者の生活は厳しい状況にあるのが見て取れます。一方で、被災はしていない生活困窮者への支援数は延べ 7,106 名となり、全体の 55%にのびりました。この数は、被災困窮者の割合をはるかに上回る数となっており、もはや生活困窮は、誰がいつなってもおかしくない社会全体の課題と言える状況です。

また、当団体が直接食糧支援した 313 名のデータからみえた傾向としては、困難事由で多い順は「病気で働くことが困難」(27%)、「就職難」(14%)、「精神障害があり働くことが困難」(10%)、「シングルマザー」(3%)、その後に「知的障害がある」「借金」「身体障害」「DV」「ホームレス」などと続きます。年齢別でみると「0 歳～20 歳」(14%)と全国平均を上回り、「21 歳～64 歳」(58%)と最も働き盛りと言われる年齢層が

全体の半分以上を占め、「65 歳以上」(25%)と高齢者も変わらず多い状況が浮き彫りになりました。世帯構成別で最も多い順では「独居」(78.9%)、「親 1 人・子 1 人 世帯」(8.5%)、「夫婦 2 人世帯」(3%)となり、その後に「兄弟」「親 2 人・子 1 人 世帯」「親 1・子 1・親族 1 世帯」と続きます。このデータは、昨年度のデータと多少順位に入れ替わりはあるものの大きな違いは見られず、被災者、高齢者、障害者、病気、シングルマザーなどの背景を抱える方々が、最も多く生活困窮に陥っていることが分かりました。また、21 歳～64 歳の貧困率は昨年度より増加し続けていることに伴い、これからの将来、その子どもたちの貧困が益々増加してくることも、容易に予想できる状況で、現在、多くの子どもたちの健康・進学など未来の“可能性”という芽が摘まれようとしている状況といえます。

当法人は、今年度 5 月に全国初となるフードバンク活動を通じた就労移行支援事業(就労サポートセンターあがいん)を開所したことにより、食糧支援の社会的ニーズが増え続けている状況の一方で、職員がフードバンク活動だけに専念することができず、そして、もはや当団体単独では経済的にも人員的にも限界がある中で、どのように今後も継続的に、より多くの困っている方々への食糧支援に応えていけるかを考え、体制を整備してきた 1 年間でもあり、活動に参加し協力して下さる個人や団体の呼びかけに力を入れてきました。その結果、日々のフードバンク活動に協力くださっているボランティアさんは 10 名に増え、今年度に食糧を寄贈くださった数は、昨年度に比べ爆発的に増え 673 件、44 トンもの食糧を寄贈いただくことができ、当団体と連携しながら、共に食糧支援や生活の包括支援をおこなっている連携団体(行政・子ども食堂・学習支援・施設・被災地支援団体・各相談機関など)の数は 102 団体に増え、食糧寄贈くださる企業の数も 41 社に増えました。この数は、当団体の活動の認知度が更に広がっていることと、市民の多くの方々が、生活困窮や食品ロスという社会課題への関心の高さ、そして“困っている方の力になりたい”という気持ちの表れであると感じており、大変嬉しく思っております。上記の体制を整備するために、一旦は、これまで食糧提供していた団体の中から緊急性の低い団体への食糧支援は中止し、生活困窮者に絞るという断腸の判断もしてきましたが、多くのボランティアさん、連携団体、企業の皆さんにご協力いただきながら体制整備できたことにより、昨年度の 1.3 倍増となる、13,027 名の方に“命と暮らしを守る”食糧支援を実施することができました。

広報の面では、常に食糧を寄贈いただける仕組み作りと、食糧支援を必要としている方への情報提供、活動に参加協力いただける方をいかに増やしていくか、という 3 つの当団体が抱える課題を解決するために非常に重要な取組みとして力を入れてきました。私たちは、今、食べるものがなく困っている方の力になれば、という一心で活動をおこなっておりますが、見た目では分からない生活困窮者や支援を必要としている方に対して、いかに情報を届けるかという大きな課題を抱えています。そのために、多くの方に当団体の活動を知っていただくことは、結果として、もしその方の身近に困っている方がいた際に情報が提供され、1 人でも多くの食べることができずに困っている方に食糧を提供することができ命につながり、食糧支援はさることながら、その方が必要としている支援や相談機関に繋がると考え、積極的に広報活動をおこなってきました。今年度は、講演会 11 回、マスコミ掲載(新聞、テレビ、ラジオ、雑誌)39 回、宮城県内初のフードボックス設置(富谷市役所)、フードドライブでのチラシ配り 9 回、フェイスブックでの情報発信(約 800 名がフォロー)という数にのぼり、どれも反応や注目度は高く、市民の関心の高まりを感じるだけでなく、こういった地道な広報活動によって、今、食べられない方へ情報が行き届き、命をつなぐことができ、困窮者支援と食品ロス・環境問題の両面において、非常に多くの方々の関心が集まり、活動の輪が広がり続けています。

行政との連携においては、食べ物がないで困っている方が相談窓口に来た際の、各自治体の行政窓口との連携を図る協議を重ねてきたことで、日々の食糧支援活動の中で、多くの行政機関と連携しながら支援をお

こなう連携と関係性を築くことができいております。また宮城県が平成 29 年度から「フードバンク活動支援事業補助金」を開始し、当団体の活動に補助金を出していただけるようになり、地元の富谷市との連携で県内初のフードボックスを市役所に設置していただくこともできました。その他、食品ロス・環境の側面では、仙台市環境局主催の様々なイベントで連携させていただき今後も毎年の恒例行事になりつつあるなど、行政機関とも幅広く連携しながら活動させていただきました。また、今年度 7 月におこなわれた仙台市長選挙立候補者に対して「生活困窮者支援にかんする 公開質問状」を提出し施策をお聞きたり、仙台市の各関係課と定期的に意見交換会を実施し、今後の連携のあり方について協議も進めているところです。

データ収集の面では、昨年まで支援ケース記録を詳細に取れていませんでしたが、今年度から障害や病気、生活保護受給の有無、家族構成、ライフラインの状況などの詳細データを取り始めました。その他にも、寄贈いただいた食糧品の重量や、食糧支援した重量などのデータも取りはじめ、より正確なデータを取ることで、説得力のある現実の数として、現状を広く伝えていく材料として活用していくと共に、このフードバンク活動の必要性や意義、そして困っている方々への支援・施策のあり方をさらに社会に伝えていきたいと考えています。

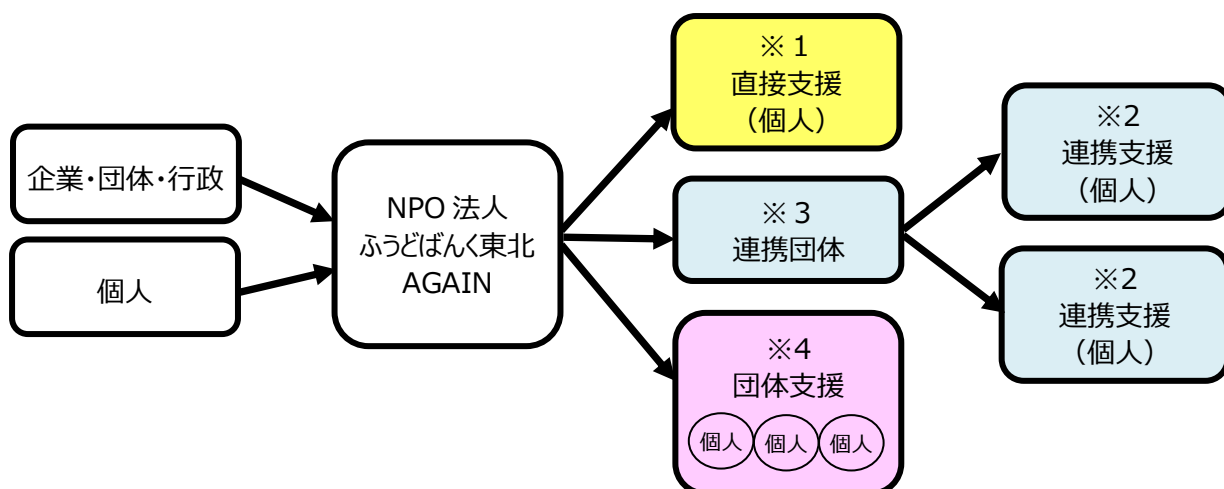
職員のスキルアップの面では、これまで生活困窮者と接したことの無い職員が大半の中、この 1 年間ではまず、困窮者から相談があった際に、本人の声に耳を傾けること、その方に寄り添った支援をしていく姿勢を大事にすることに力を入れてきました。この相手に対する姿勢は、障害のある方への就労支援においても共通して重要になってくる基本的姿勢になることから、就労支援の研修や、日々接する相手との関係の中で、身に付けてきました。そのことで、5 時間近い相談にもものことができ、涙を流しながら喜んでくれる相談者や、元気になったらお礼に来ますと言ってくれる相談者などもおり、フードバンク活動において、支援数だけではない、一番大事な対応がしっかりとできていると感じています。これからも、私たちは“お腹を満たす食糧支援”だけをしているのではなく、食糧を寄贈くださる多くの方々の温かい気持ちをお届けする役割もあり、この食糧支援を通して、生活に困窮している方が、少しでも勇気や元気をもらい、生きる力を得られることができるような活動をしていきたいと思えます。

このように、当フードバンクの活動の意味は非常に大きいものと改めて実感しているのと同時に、食糧支援という活動を通して、“誰も取り残されることのない、希望が持てる共生社会”に向けて、これからも困っている方々の一助となれるような活動をしていきたいと強く感じております。

## 2.2 支援方法

以下の 3 通りの方法で食糧をお届けしています

1. 当団体が直接配達・または郵送でお届けする「直接支援」
2. 連携団体を通じて食糧をお届けする「連携支援」
3. 団体や施設を通じて、その利用者に食糧をお届けする「団体支援」

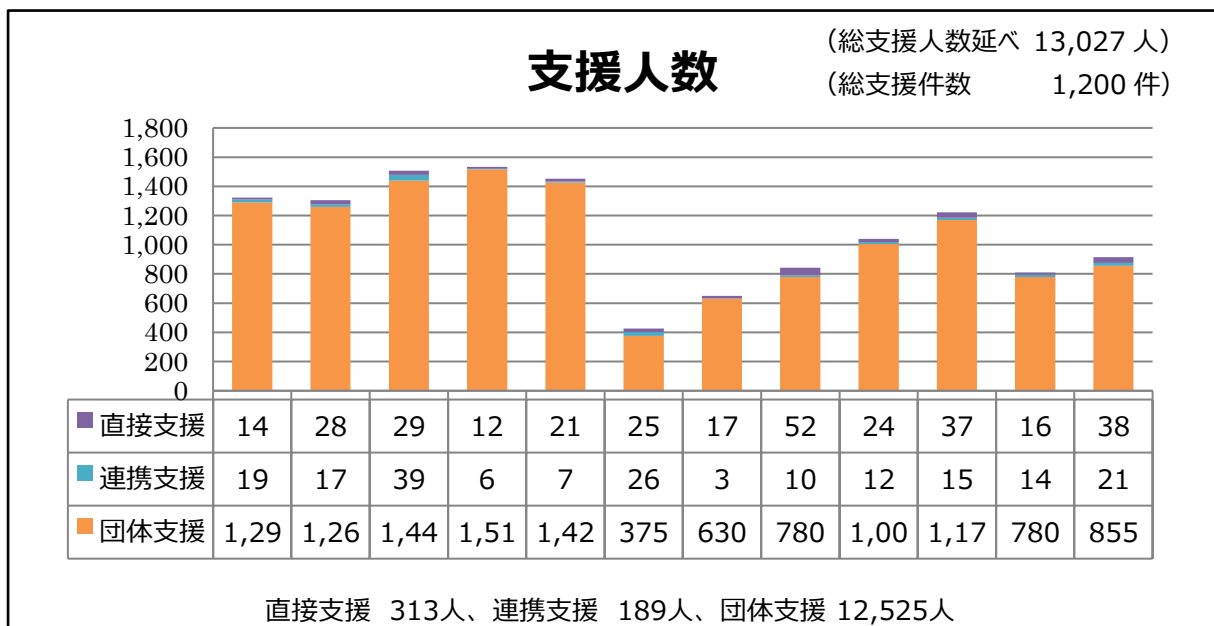


- ※ 1 . 直接支援 = 当団体が直接に食糧支援をおこなった個人支援ケース
- ※ 2 . 連携支援 = 連携団体から食糧支援をおこなった個人支援ケース
- ※ 3 . 連携団体 = 当団体と連携団体にある団体
- ※ 4 . 団体支援 = 当団体が食糧支援している団体

## 2.3 支援実績

### 2.3.1 支援人数

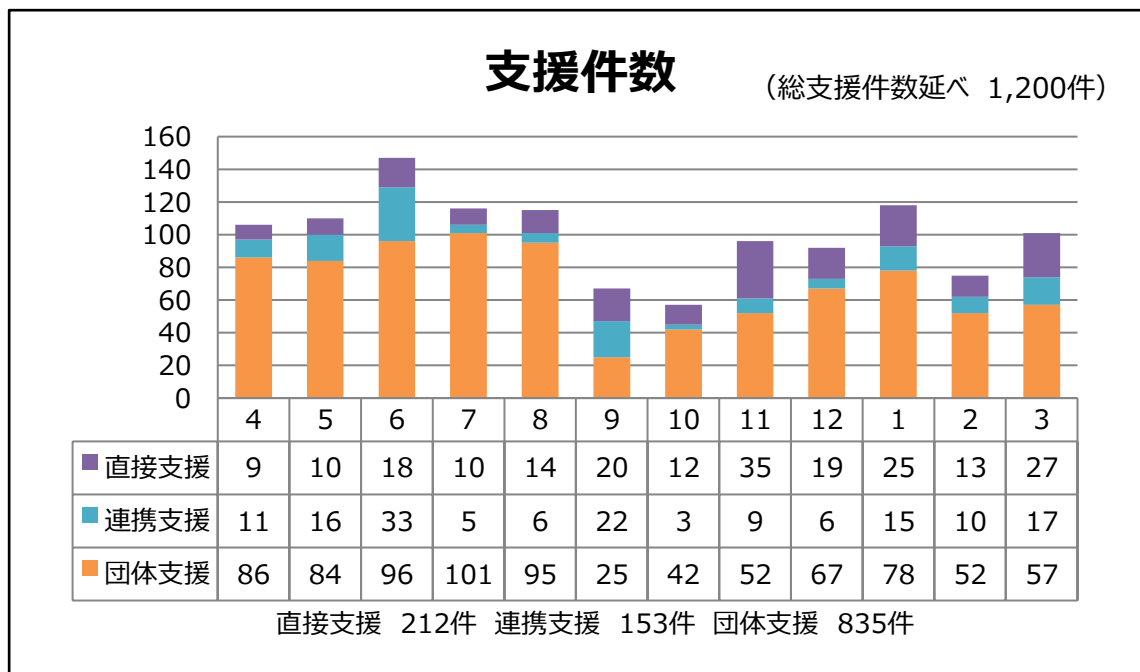
食糧支援した延べ人数は 13,027 名にのぼりました。この数は、昨年度（約 10,000 名）の 1.3 倍増となる、はるかに多い人数となり、年々生活困窮者への食糧支援のニーズは増え続けています。



- ※ 「支援方法」の※ 1、※ 2、※ 4の合計人数で計算
- ※ 団体支援は、1 件あたり 15 人で計算

### 2.3.2 支援件数

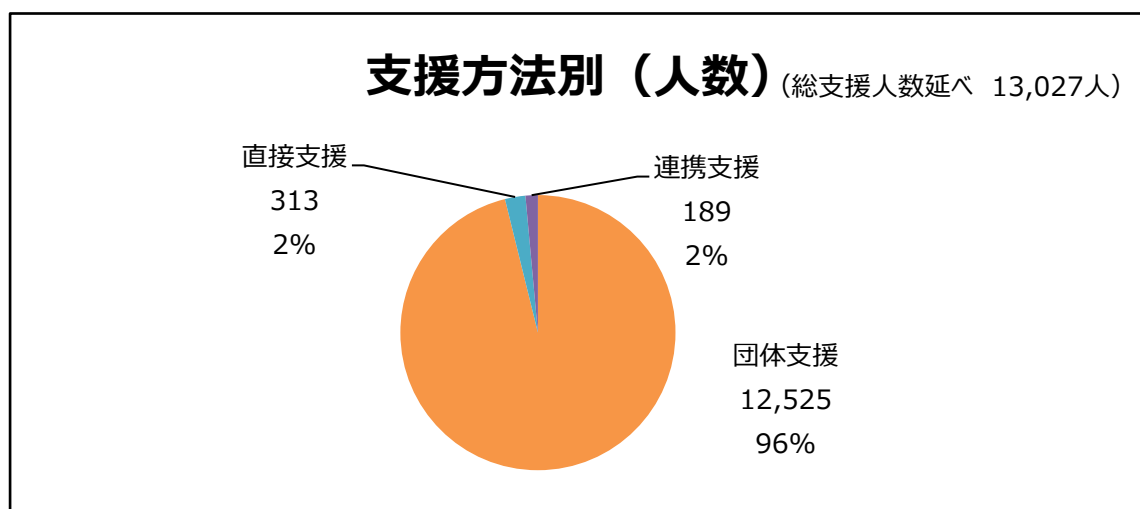
食糧支援した件数は 1,200 件にのびりました。この数は昨年度(約 1,000 件)の 1.2 倍増で、特に直接支援と連携団体を通じての支援件数が増えたことから、各機関と連携ができていることが分かりました。



※「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

### 2.3.3 支援方法別（人数）

直接支援は、昨年度(約 200 人)から 1.5 倍増の 313 人に、連携団体を通しての支援は昨年度(約 50 人)から 1.5 倍増の 189 人に、団体支援を通しての支援人数は、昨年度(約 9,500 人)から 1.3 倍増の 12,525 人となり、特に直接と連携団体を通じての食糧支援が増加していることが分かりました。

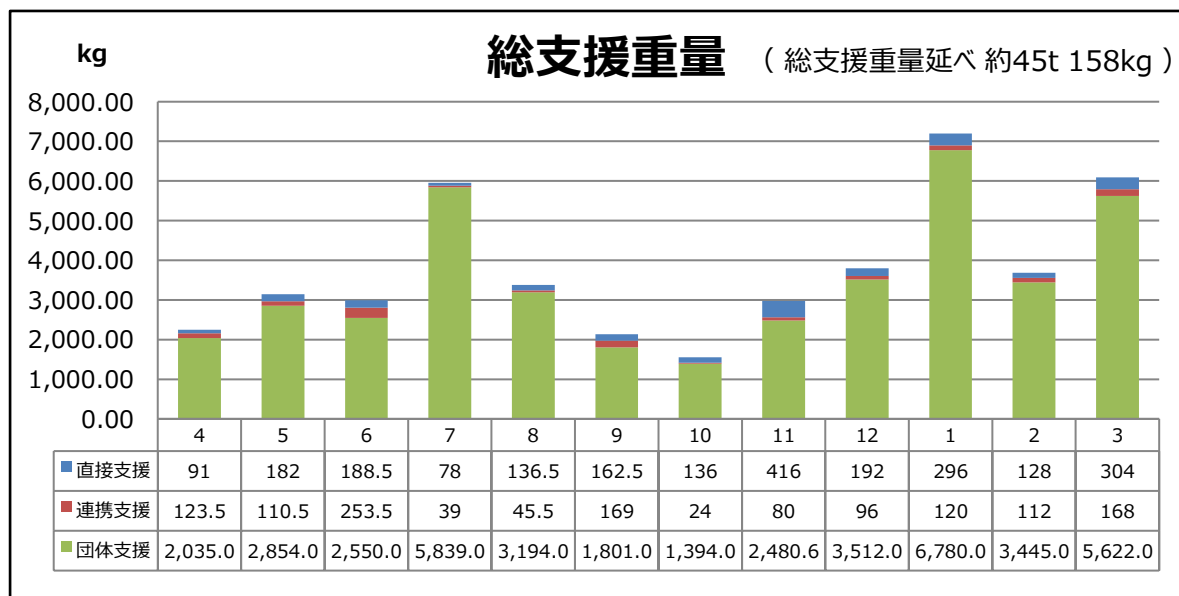


※「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算



### 2.3.4 支援総重量

食糧支援した重量は 45 トン 150kg にのぼり、述べ 13,027 名の食事につながりました。



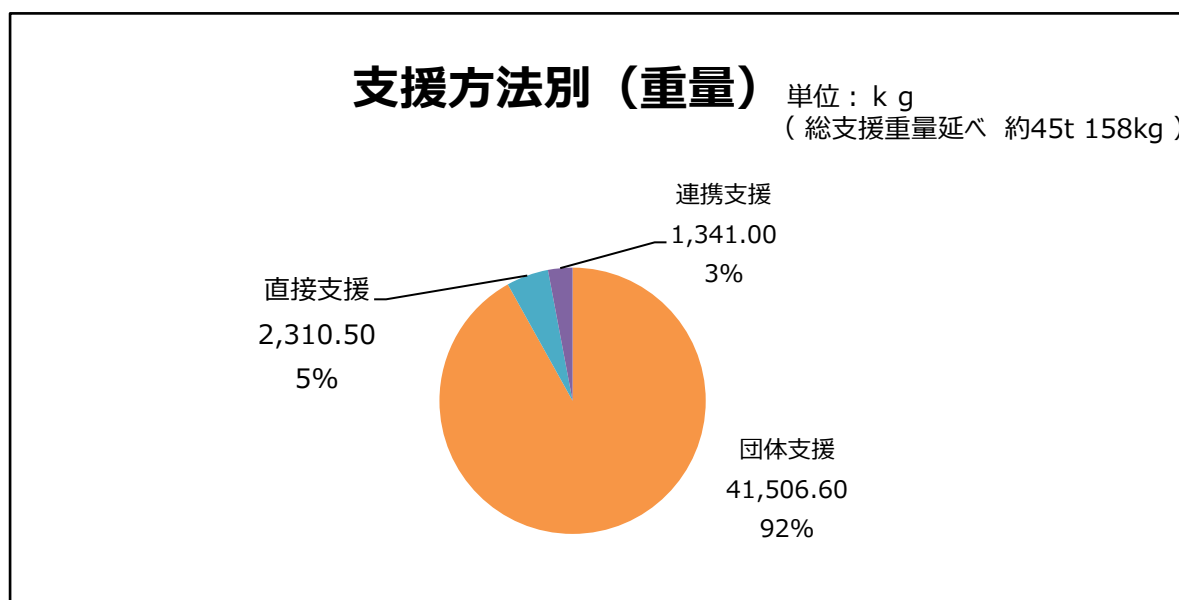
※ 「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

※ 直接支援と連携支援の重量は、1 週間食べることのできる食量(1 回 : 1 人分 8Kg)と人数で計算

※ 団体支援(団体支援)の重量は、1 人の 1 回の食事量(1 食 : 1 人分 500g)と支援人数で計算

### 2.3.5 支援方法別 (重量)

支援方法別の延べ人数に比例して、それぞれの重量も多くなりました。



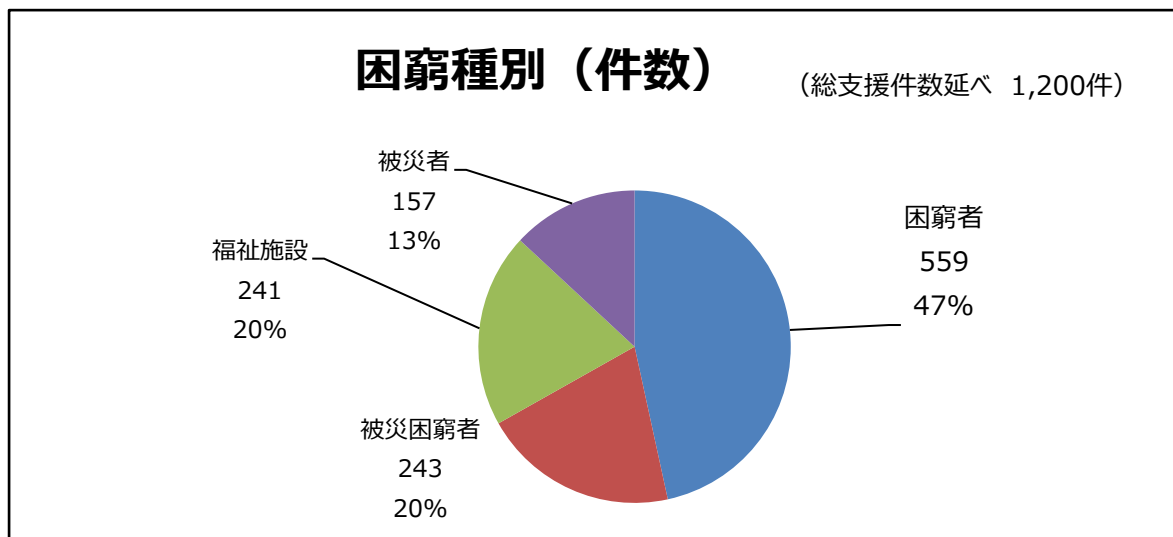
※ 「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

※ 直接支援と連携支援の重量は、1 週間食べることのできる食量(1 回 : 1 人分 8Kg)と人数で計算

※ 団体支援(団体支援)の重量は、1 人の 1 回の食事量(1 食 : 1 人分 500g)と支援人数で計算

### 2.3.6 困窮種別（件数）

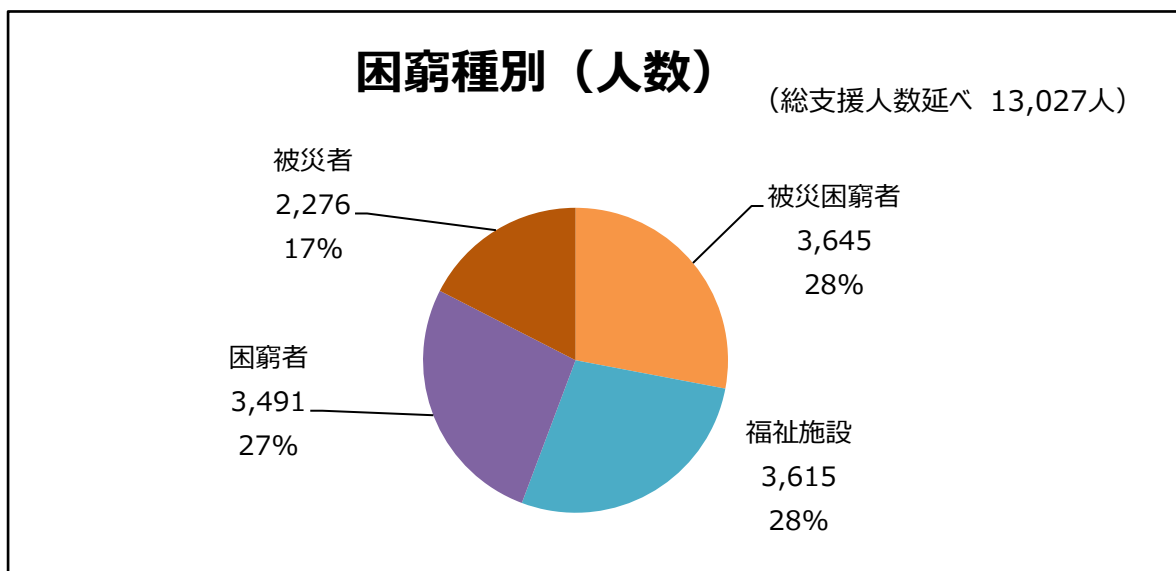
被災困窮者への食糧支援件数は 33%にのぼりました。また、被災はしていないが生活困窮している方への食糧支援件数は 47%にのぼり、生活の困窮は被災地・非被災地にかかわらず全地域で陥っていることが分かりました。



※「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 3、※ 4 への支援件数で計算（例：3人家族でも1件で計算）

### 2.3.7 困窮種別（人数）

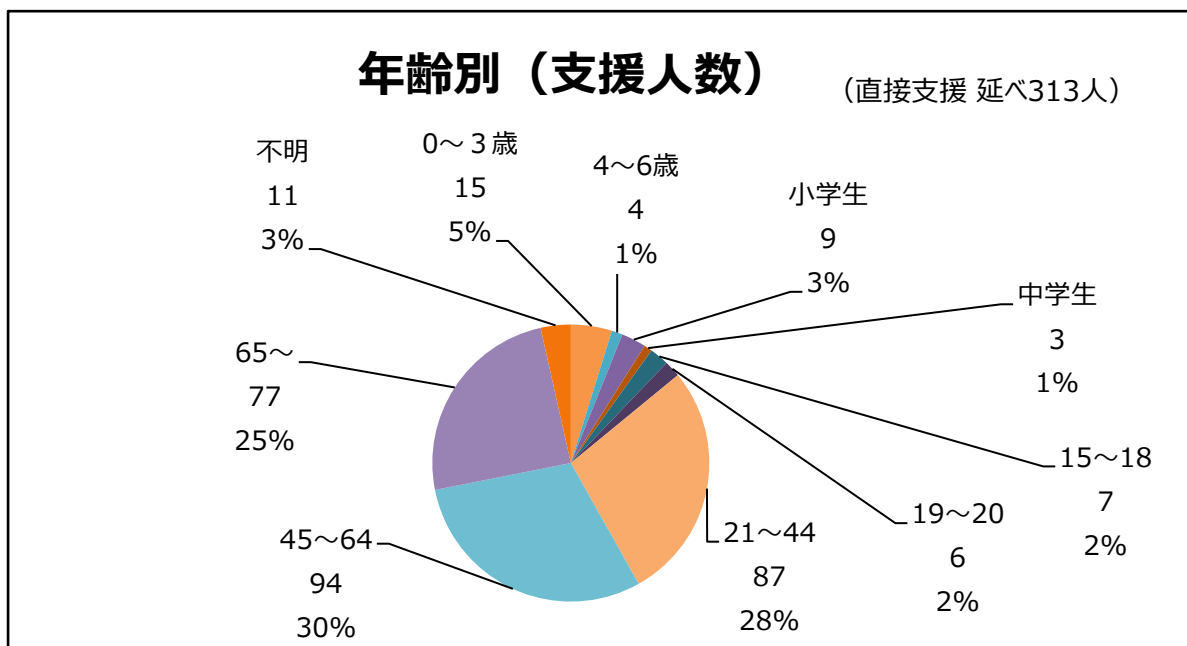
支援人数でみると被災困窮者(28%)が一番多くなりました。



※「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 への支援件数で計算

### 2.3.8 年齢別（人数）

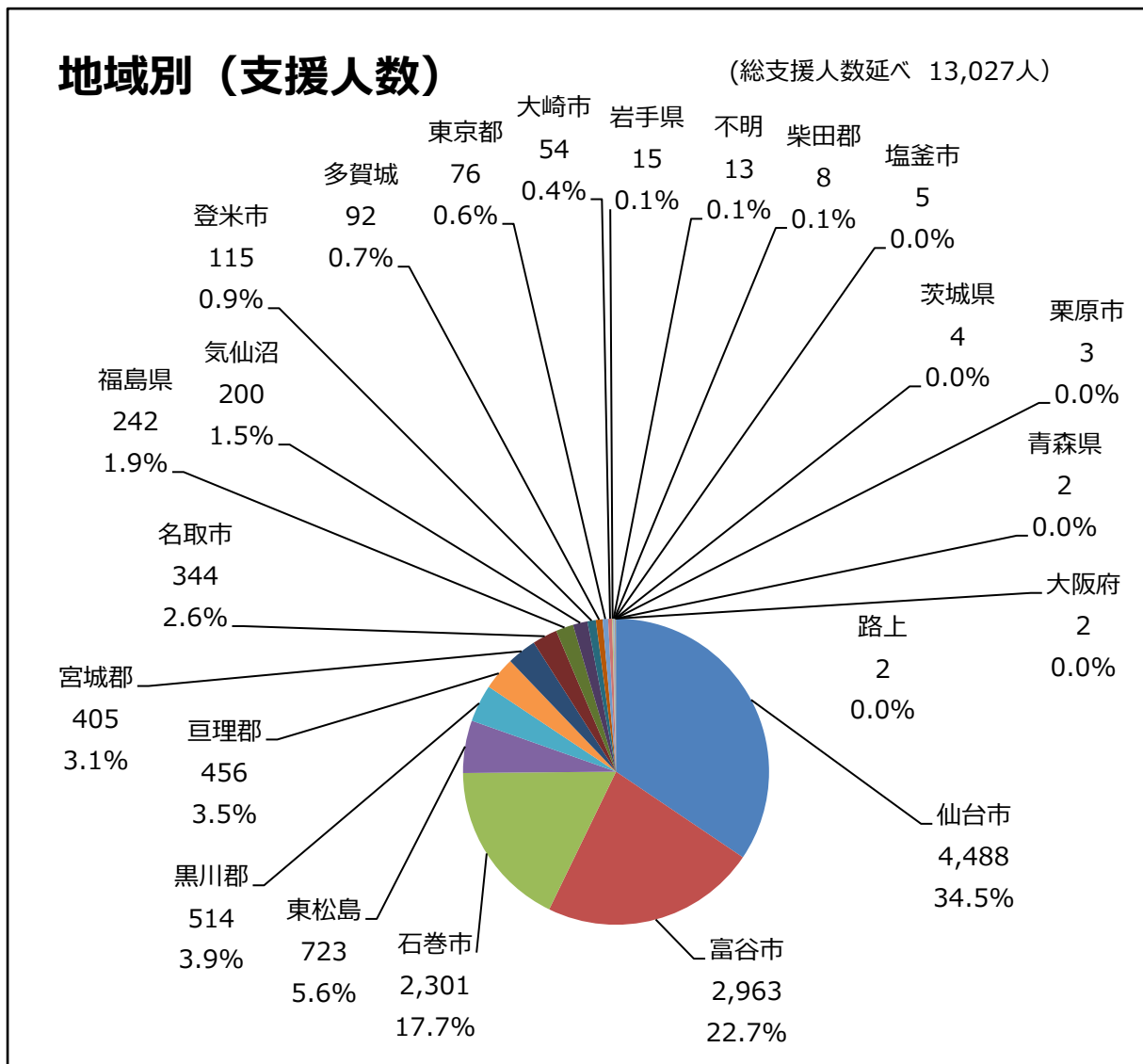
「直接支援」のデータで集計し、対象人数は 313 人と少ないものの、ある程度の傾向が示されました（連携支援・団体支援のケースでは、年齢情報が不明が多いため）。一番多いのが、世間一般では働き盛りと言われている年代の 45～65 歳(30%)で、次に 21～44 歳(28%)、続いて 65 歳以上(25%)となりました。高齢者と、21～65 歳の方が多く貧困に陥っています。親の貧困により子どもへの貧困の連鎖も見られます。



※「支援方法」の、※ 1 の「直接支援」データのみで計算（他のデータは不明情報が多いため）

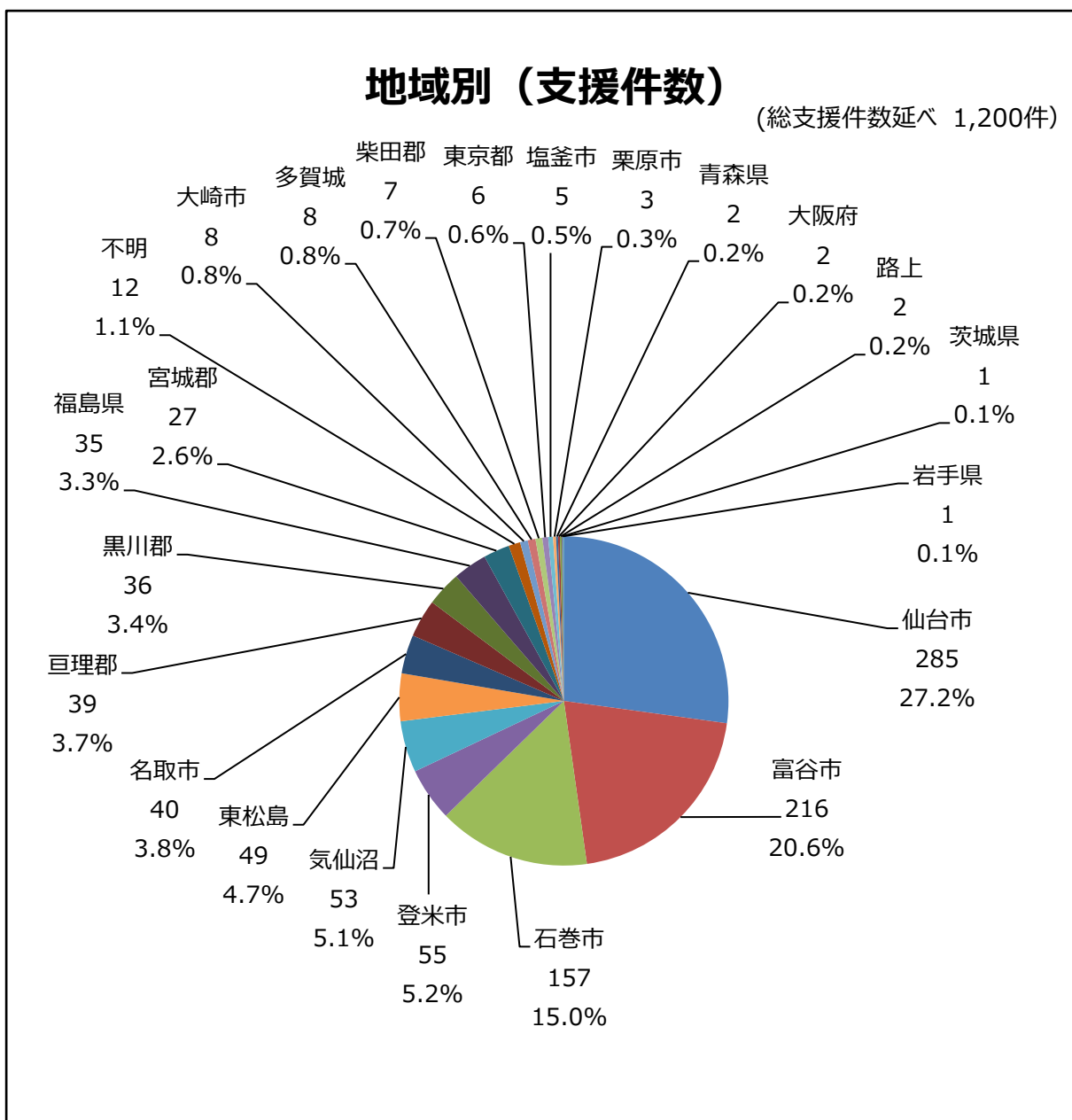
### 2.3.9 地域別（支援人数）

仙台市内(34.5%)への食糧支援が圧倒的に多く、次に事務所がある富谷市が多かった。また、東日本大震災の被害が特に甚大だった地域である石巻市、気仙沼、塩釜市、東松島市、名取市、多賀城市、亘理郡、福島県からの支援要請も多く、この8つの地域への支援合計は全体の34.4%にのびました。



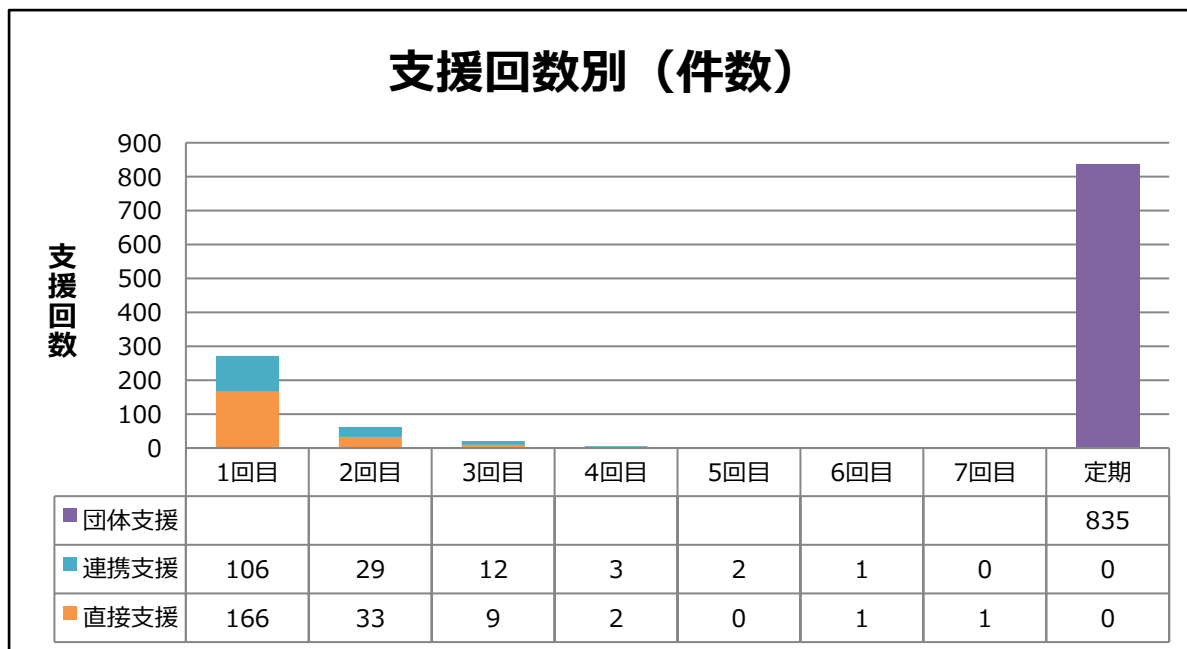
### 2.3.10 地域別（支援件数）

フードバンク団体がまだ無い福島県に住む個人へも計 35 回食糧支援をおこないました。



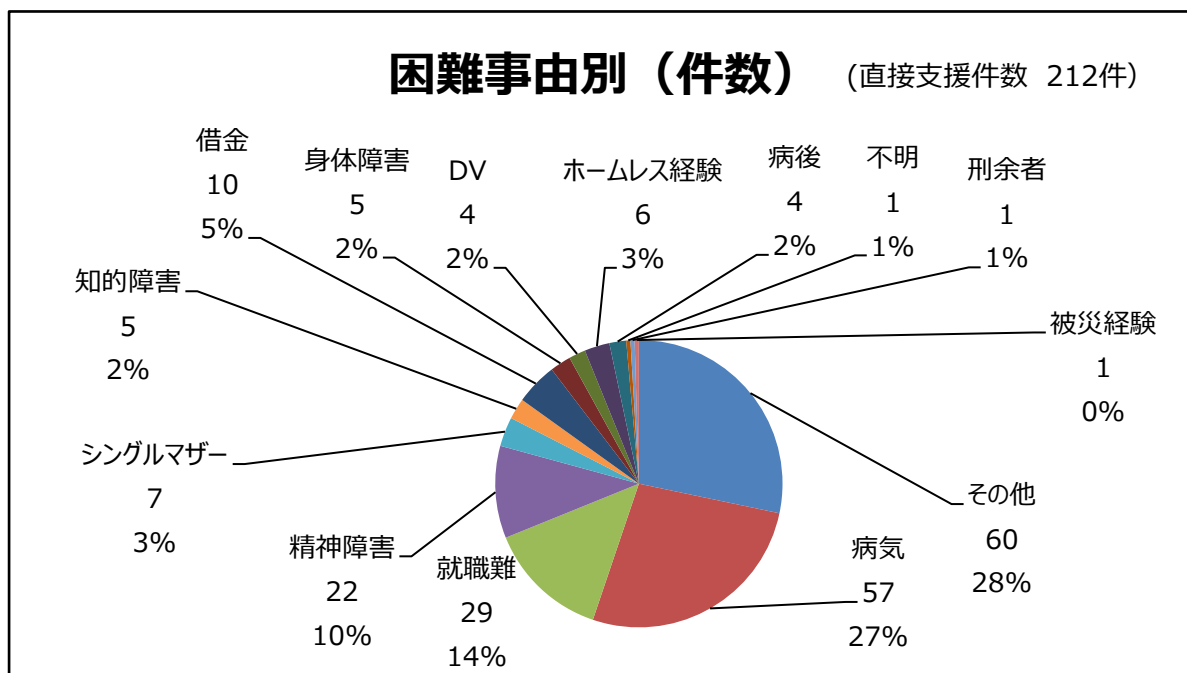
### 2.3.11 利用回数別（件数）

ほとんどの方の利用回数は1回(1週間分)となりましたが、中には継続的に2～7回支援が必要な方もおり、1人1回という回数を決めることなく、その方の状況に応じた食糧支援をおこないました。



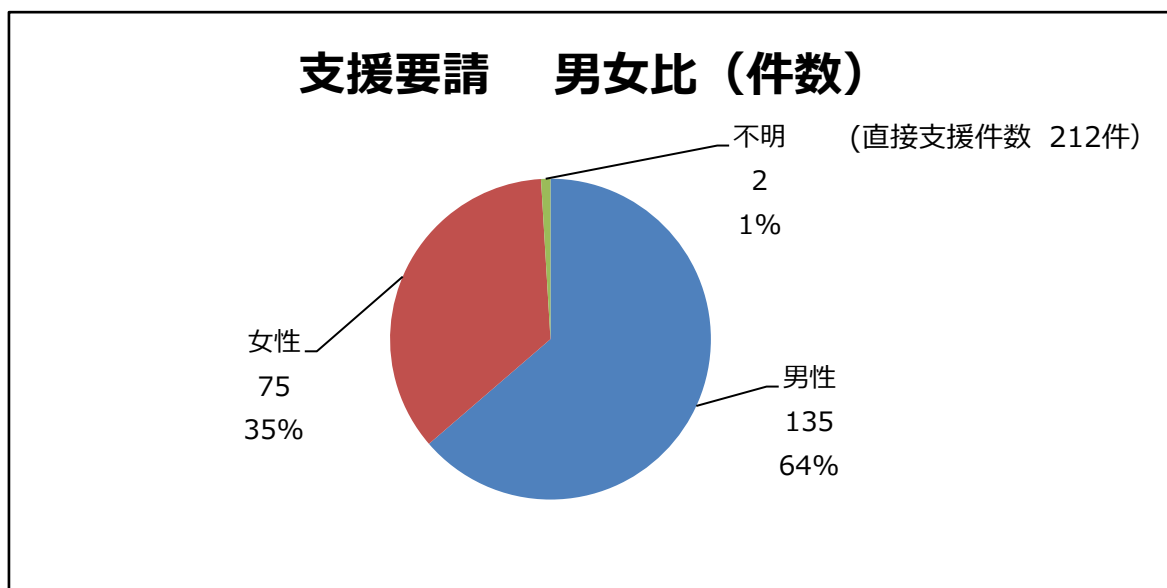
### 2.3.12 困窮事由別（件数）

多い順で「病気で働くことが困難」(27%)、「就職難」(14%)、「精神障害」(10%)で、その後に「シングルマザー」「知的障害」「借金」「身体障害」「DV」と続きます。このデータからも、病気、働き盛りの世代、障害者、シングルマザーが多く、いつ誰が、どんなきっかけで貧困に陥ってもおかしくないことが分かります。



### 2.3.13 支援要請 男女比（件数）

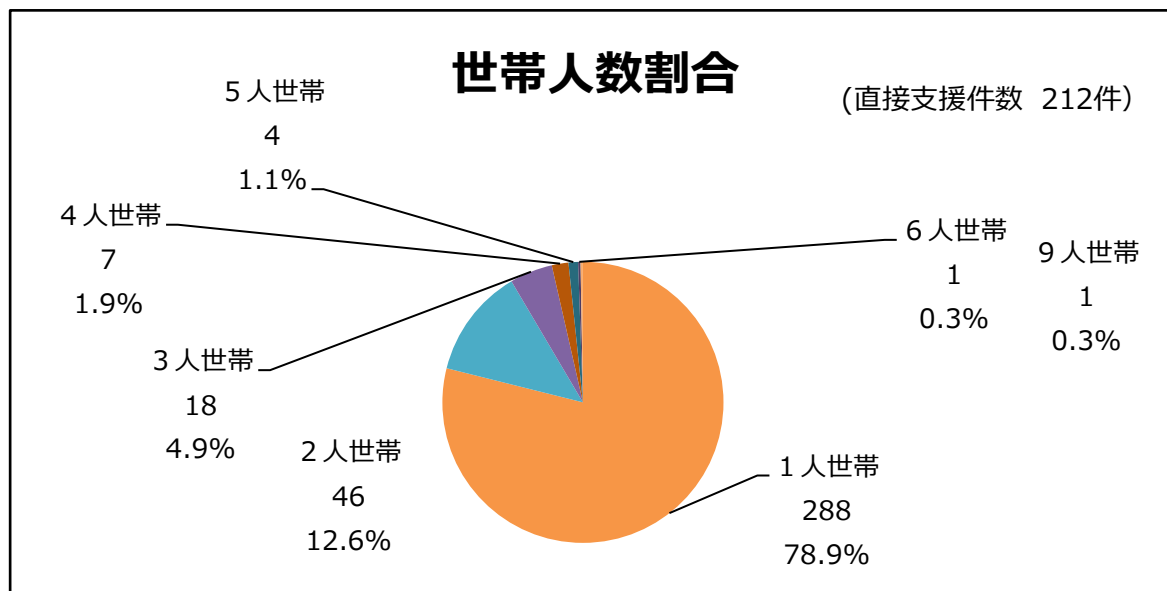
申請者(世帯の代表者 1 人)の性別のみで集計



※「支援方法」の、※ 1、※ 2 のデータで計算

### 2.3.14 世帯人数割合

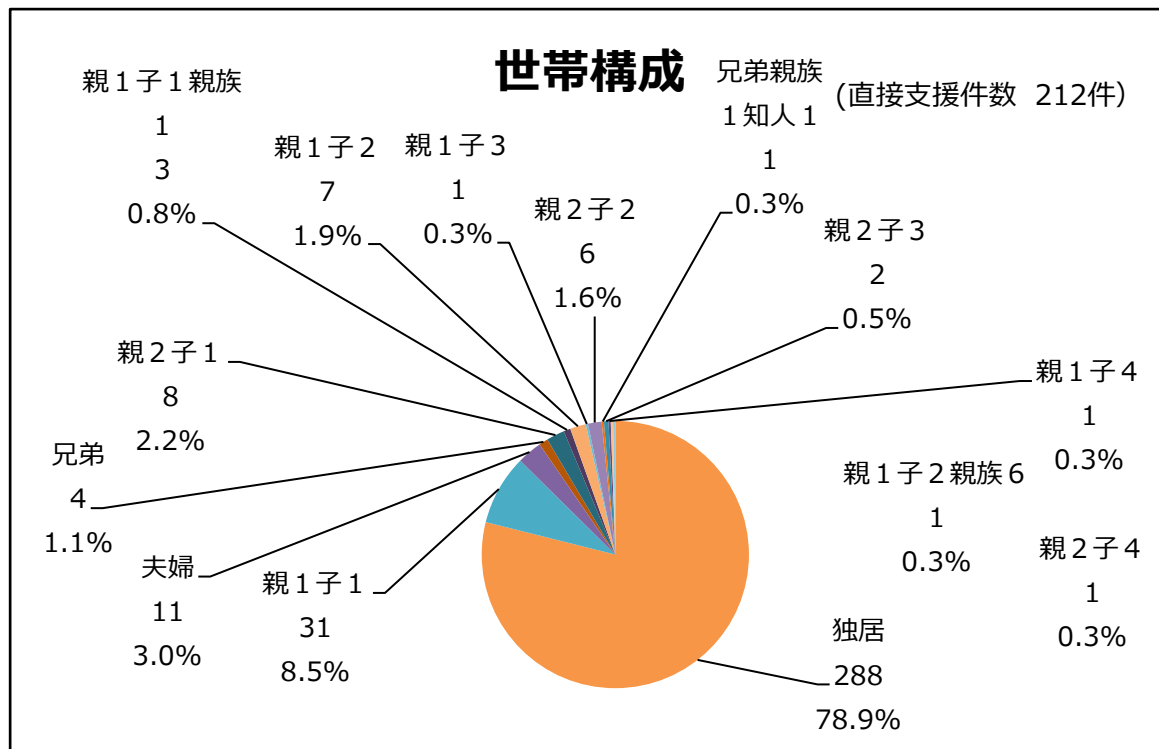
圧倒的に独居暮らしの方が多く、次に2人世帯、3人世帯と続き、この上位3種の世帯タイプで全体の96.4%を占めました。



※「支援方法」の、※ 1、※ 2 のデータで計算

### 2.3.15 世帯構成

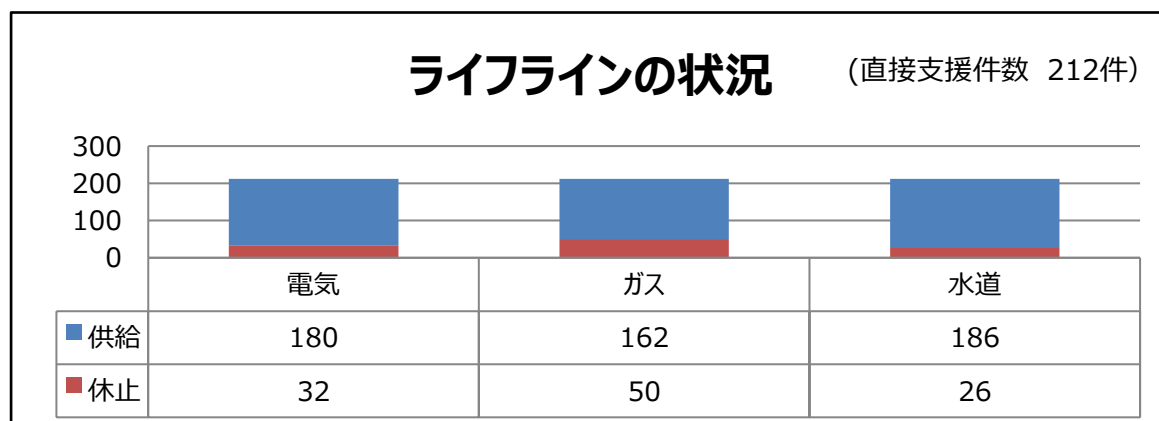
多い順に、「独居」(78.9%)、「親 1 人・子 1 人 世帯」(8.5%)、「夫婦 2 人 世帯」(3%)に、生活困窮者が多い傾向が見られました。



※「支援方法」の、※ 1、※ 2 のデータで計算

### 2.3.16 ライフラインの状況

「直接支援」のデータで集計し、対象人数は 212 件と少ないものの、ある程度の傾向は浮き彫りになりました。電気は 15%、ガスは 23%、水道は 12%、の世帯で休止していることが分かりました。

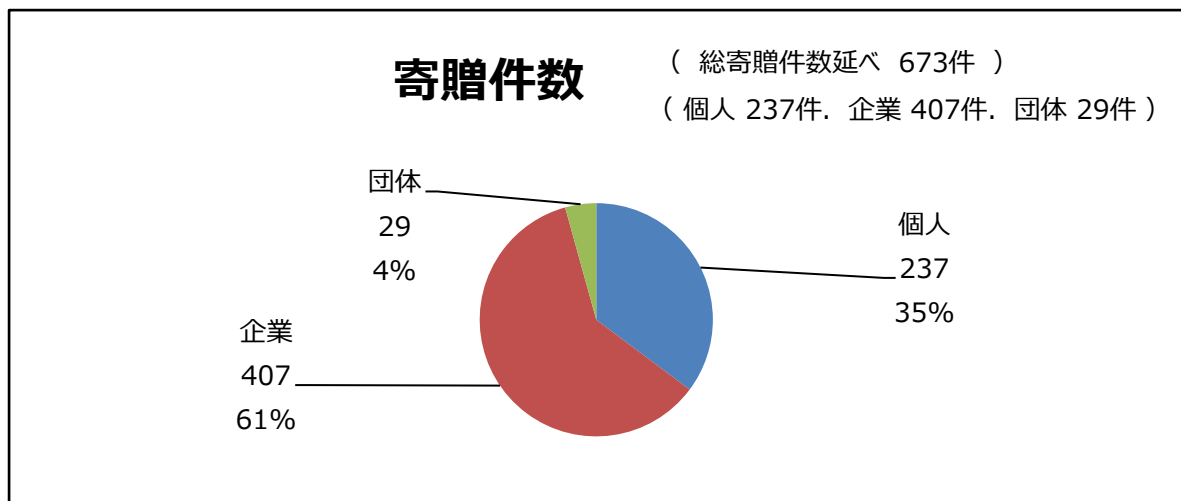


※「支援方法」の、※ 1、※ 2 のデータで計算



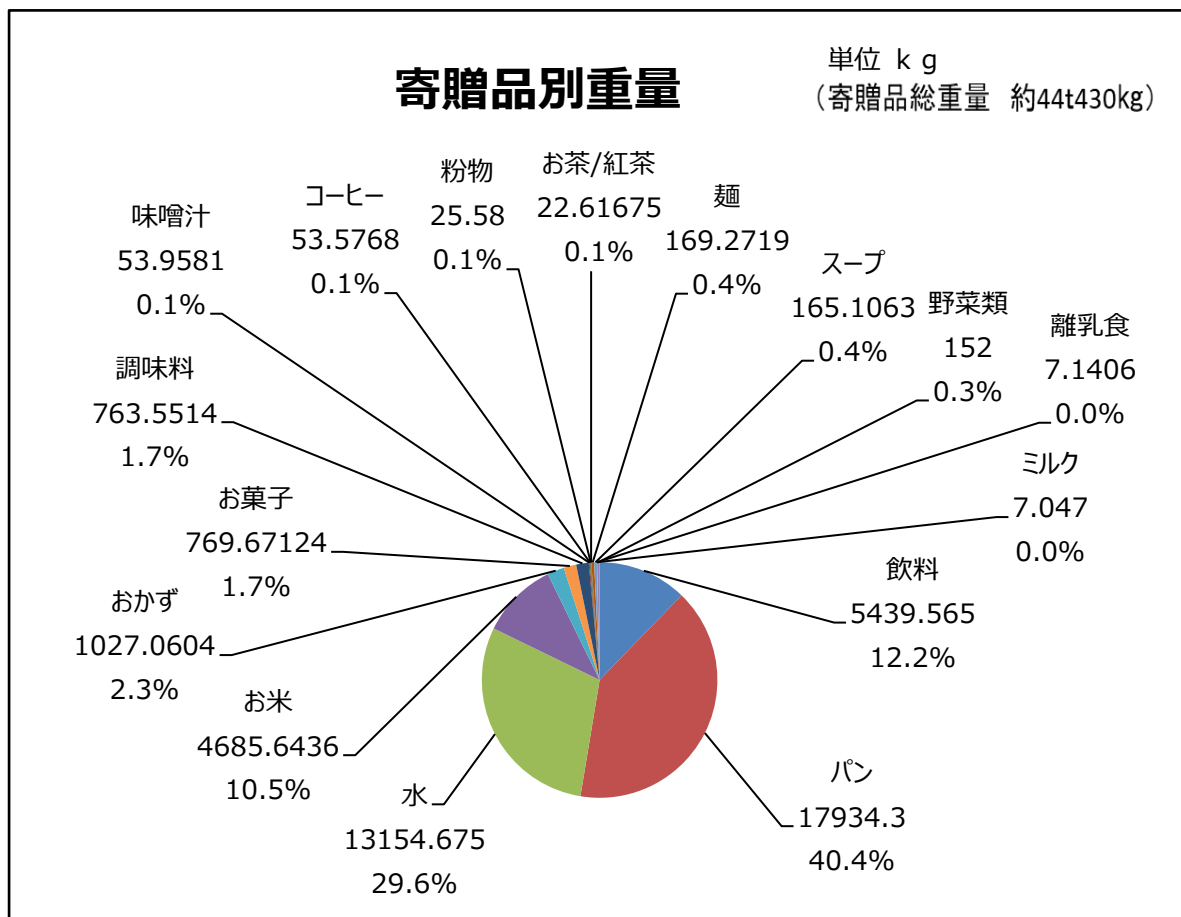
### 2.3.17 食料寄贈（件数）

活動に賛同し、食糧寄贈くださった件数は爆発的に増加しました。多くが、マスコミで知ったり、講演会を通じて寄贈して下さいました。



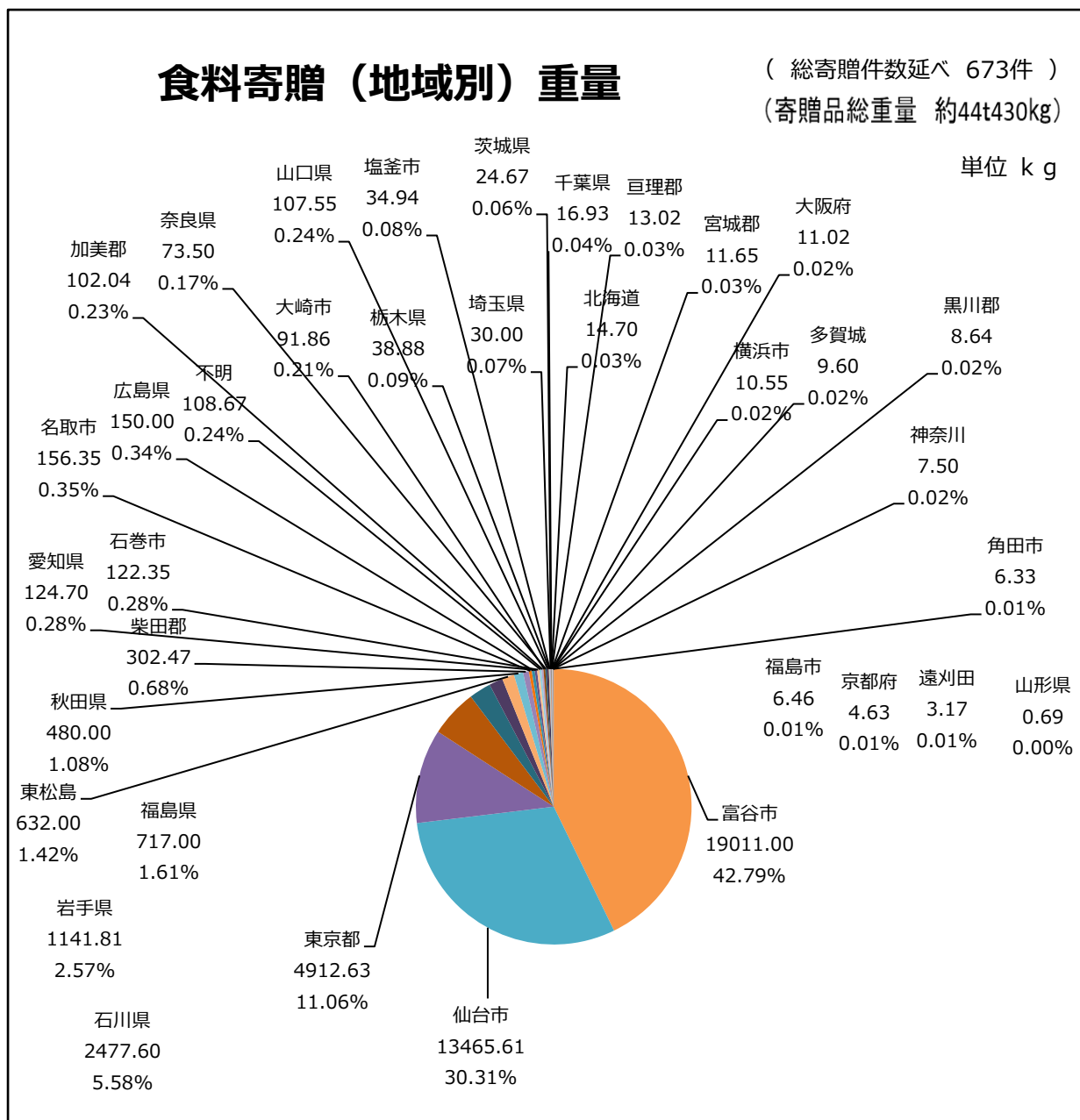
### 2.3.18 食料寄贈（品目別）

パンとお米を合わせると 50%となるものの、その他の、おかずとなる食糧品の寄贈割合が極端に少ない傾向が見られ、実際に食糧支援する際におかず類が足りない状況が慢性的に続きました。



### 2.3.19 食料寄贈（地域別）

平成 29 年度には 673 件(個人 237 件、企業 407 件、団体 29 件)の寄贈をいただき、その重量は 44 t にのぼりました。寄贈下さった皆さまは、富谷市や仙台市にとどまらず、全国各地から当団体に寄贈くださいました。



## 2.4 連携団体一覧（102 団体）

1	(一社)WATALIS	52	茂庭台復興住宅
2	(一社)コ・エル	53	(株)ドリームライト ひかりの里
3	(一社)チーム王冠	54	雇用促進住宅 愛島宿舎(名取市)
4	(一社)PSC 富谷自立相談支援センター	55	仙台市障害者スポーツ協会
5	(一社)PSC 宮城県南部自立相談支援センター(仙南事務所)	56	仙台地方母子福祉連合会(巨理町)
6	(一社)PSC 宮城県南部自立相談支援センター(宮城黒川事務所)	57	仙台地方母子福祉連合会(大郷町)
7	(一社)PSC 多賀城市自立相談支援窓口	58	富谷市街角カフェ
8	(一社)PSC 名取市すまいとくらしの再建支援センター	59	つるがや子ども食堂
9	(一社)宮城県肢体不自由児協会	60	富谷市民生委員
10	(一社)Luominen	61	富谷柔道スポーツ少年団(柔道)
11	(株)アーバンディレクト 緑のそよ風	62	富谷フレンズスポーツ少年団(バレーボール)
12	(公財)共生地域創造財団	63	ナックス
13	(社福)障害者支援施設 宮城県船形コロニー	64	名取市植松入生団地
14	(社福)仙台社会事業協会 母子生活支援施設 仙台つばさ荘	65	名取市箱塚桜団地応急仮設住宅
15	(社福)夢みの里 就労継続支援センター 桜・さくら	66	東仙台子ども食堂
16	(社福)ラ・サール会 ラ・サール・ホーム	67	(特非)フードバンク岩手
17	(社福)ロザリオの聖母会 児童養護施設仙台天使園	68	復興公営住宅 あすと長町
18	(社福)わらしべ舎	69	復興公営住宅 あすと長町第二
19	(特非)TEDIC	70	母子生活支援施設 仙台むつみ荘
20	(特非)いのちのパン	71	萬竇院
21	(特非)キッズドア	72	美田園北集会所
22	(特非)仙台夜まわりグループ	73	宮城 MAX(車イスバスケット)
23	(特非)創る村	74	宮城県障害者スポーツ協会
24	(一社)アート・インクルージョン	75	宮城県障害者スポーツ指導者協議会
25	(特非)萌友	76	宮城県障害者福祉センター
26	(特非)ポリス	77	宮城県母子福祉連合会
27	(社福)夢みの里 青い鳥児童館	78	みやぎ障害者バドミントン協会
28	(特非)ワーカーズコープ くらし・しごと相談センターともまち登米	79	宮城卓球バレー協会
29	(特非)ワンファミリー仙台	80	宮城野区 白鳥町老人会
30	(認非) Swich	81	森消化器内科外科
31	(認非)ローゼンベル	82	富ヶ丘あおばスポーツ少年団(バレーボール)
32	(社福)宮城県福祉事業協会 宮城県さくらハイツ	83	東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)
33	(社福)善き牧者会 小百合園	84	広瀬川倶楽部
34	(社福)夢みの里	85	東仙台民生委員

35	(社福)夢みの里 インターナショナルプリスクール ピノッチオ	86	仙台コミュニティ就労事業所 コンパス
36	(社福)夢みの里 グループホーム紫苑	87	仙台リハビリテーション病院
37	(社福)夢みの里 グループホームひだまり	88	地域復興支援センター お茶っことはうすオアシス
38	(社福)夢みの里 共生型福祉施設 はびねすプラザ	89	仙台市障害者スポーツ協会(卓球)
39	(特非)アスイク	90	仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷ
40	(特非)ふうどばんく東北 AGAIN あがいん食堂	91	仙台地方母子福祉連合会(富谷市)
41	(特非)ほつぷの森	92	仙台地方母子福祉連合会(七ヶ浜)
42	(特非)ワーカーズコープ 自立相談支援事業所 ひありんく	93	仙台地方母子福祉連合会(松島町)
43	(特非)難民を助ける会 AAR JAPAN	94	仙台地方母子福祉連合会(大和町)
44	(社福)夢みの里 トータルサポートセンター みんなの夢広場	95	(一社)つくかふえ
45	(社福)夢みの里 街角 cafe 桜	96	太白区役所
46	(有) シー・キューブ デイサービスセンター 優	97	福島フードバンク
47	石巻市 河北地区民生委員	98	登米市母子福祉連合会
48	石巻市 仮設三反走団地	99	富谷ソフトテニス
49	石巻地域若者サポートステーション	100	レインボーオブホープ
50	おてら災害ボランティアセンター	101	安心安全のまちづくり
51	復興公営住宅 県営関船団地	102	富谷市ゆとりすと

## 2.5 企画イベント等実績

### 2.5.1 フードドライブ

計 9 回 (集まった食糧の総重量 : 約 155kg)

	日時	イベント名	場所	重量
1	6月24日(土)	どんどこ市	勾当台公園	42.94 kg
2	6月25日(日)	どんどこ市	勾当台公園	42.21 kg
3	9月3日(日)	エコフェスタ 2017	勾当台公園市民広場	68.12 kg
4	9月30日(土)	アートインクルージョン	J R長町駅前広場	1.8 kg
5	10月29日(日)	0円キッチン 自主上映会	ほつぷの森	2.2kg
6	11月20日(月)	地球温暖化防止講演会	山形テルサアポローズ	不明
7	1月26日(金)	資源ナーレ	仙台メディアテーク	25kg
8	3月29日(木)	たびびと defi とゆる〜り マルシエ	Atelier Jina	6kg
9	3月30日(金)	たびびと defi とゆる〜り マルシエ	Atelier Jina	6kg

### 2.5.2 フードボックス設置

- 富谷市役所 (期間 2017年11月24日~12月22日) 食料寄贈重量 約 237 kg

### 2.5.3 生活困窮者への食事提供「AGAIN 食堂」

- 計 1 回 11 月 20 日 17:30～@仙台市福祉プラザ 9 階(和室) 35 名の方が来場

### 2.5.4 講演会活動

	日時	主催	内容	担当
1	6/3(土)	宮城高次脳機能障害連絡協議会 どんまいネットみやぎ	全国初のフードバンク活動を通し“働く喜び”を軸においた就労支援の取組み	小椋
2	7/2(日)	多賀城図書館	活動紹介、キッズドアとの対談	小椋
3	8/1(水)	タビオ大学	フードバンク活動の紹介と困窮者の現状 食糧提供の呼びかけ	小椋
4	9/30(土)	アートインクルージョン 2017	全国初の「フードバンク×就労支援」の取組み PSC 平井和則氏×小椋 亘 対談	小椋
5	10/14(土)	西公園 4 weeks	官民協働のあり方について	小椋
6	10/29(日)	ふうどばんく東北 AGAIN	0 円キッチン上映会	小椋
7	11/18(土)	精神保健福祉団体連絡協議会	生活困窮者の実情や関わる上で気をつけていること	小椋
8	11/20(月)	山形市 NPO 法人 環境ネットやまがた	地球温暖化防止講演会 「身近な食品ロス問題について考えてみませんか」	小椋
9	1/26(日)	仙台市環境局家庭ごみ減量課	資源ナレー 0 円キッチン上映	小椋
10	2/21(水)	仙台市 エキナカ大学	フードバンク活動と就労支援の取組み	小椋
11	3/15(木)	宮城県	「復興」の先を考える ミーティング in 仙台	小椋

### 2.5.1 参加研修

	日時	研修名	場所	参加者
1	5 月 19 日(金)	初級 会計講座	みやぎ NPO プラザ	茶谷・鈴木
2	6 月 8 日(木)	「広がれ！子ども食堂の輪」全国ツアー-in みやぎ	宮城県庁 2 階 講堂	小椋
3	7 月 24(月)～ 25(火)	岩手フードバンク見学会	フードバンク岩手	小椋・鈴木
4	8 月 31 日(水)	NPO のためのマネジメント講座	みやぎ NPO プラザ	茶谷
5	9 月 22 日(金)	フードバンク岩手(システム開発会議)	岩手県民情報交流センター	小椋
6	10 月 2 日(月)	東北連携研修会 岩手、宮城、福島 3 県フードバンクネットワーク	宮城連携復興センター	茶谷 金
7	10 月 31 日(火)	東北連携研修会 AGAIN 見学会	ふうどばんく東北 AGAIN	全員
8	11 月 1 日(水)	静岡県 POPOLO 就労あがいん視察&情報交換会	ふうどばんく東北 AGAIN	全員
9	11 月 10 日(金)	フードバンク衛生管理講習会	アエル 13 階	鈴木、児玉、金
10	2 月 2 日(金)	貸付・緊急食糧支援に係る情報交換会	若林区役所中央市民センター	茶谷、小椋
11	3 月 16 日(金)	総会運営講座	宮城 NPO プラザ	茶谷、鈴木

## 2.6 マスコミ掲載

日時	マスコミ	タイトル
----	------	------

1	4月24日(月)	河北新報 夕刊「NPOの森」	食を通じてつなぐ善意
2	5月～6月号	雑誌「仙台経済界」	「もったいない」を「ありがとうへ」
3	6月16日(金)	F M太白	団体紹介と就労サポートあがいん紹介
4	6月19日(月)	河北新報 朝刊	フードバンクかつかつ
5	6月29日(木)	河北新報 朝刊	障害者の働く力育て
6	6月30日(木)	河北新報 朝刊	仙台市長選 啓発に期待
7	7月2日～31日	多賀城図書館 活動パネル展示	テーマ「現代の貧困について考える」
8	7月7日(金)	T B C ラジオ東北ラジオ	ロジャー大場のラジオな気分(生放送)
9	7月19(水)・20(木)	F M いづみ	団体紹介と食糧寄贈呼びかけ
10	8月号	富谷市 手をつなぐ育成会 機関紙	ブルーベリー通信
11	8月6日(日)	ワケアップ! キャンパスマガジン	食品を生かすボーダーライン
12	9月3日(日)	J : com テレビ (デイリーnews)	エコフェスタ「モットイナイから始めよう」
13	9月3日(日)	伊達武将隊	エコフェスタ ステージ登壇
14	9月14日(木)	ダンスパラダイス 2017 in 登米	協賛団体として団体名掲載
15	9月15日(金)	河北新報 朝刊「社説」	フードバンクSOS 支え合う地域社会を守りたい
16	9月30日(金)	HP「モットイナイキッチン」バナー掲載	
17	10月11日(水)	FM いづみ	仙台ラジオ通信
18	10月20日(金)	TBC ラジオ	ロジャー大場のラジオな気分
19	10月26日(木)	河北ウイークリー仙台	ふとどばんく東北仙台「0円キッチン」上映会
20	11月	東北ろうきん	ウィンターキャンペーン 2017 チラシに掲載
21	11月	東北ろうきん	広報誌
22	11月1日(水)	杜の伝言板 ゆるる 11月号	誰も排除されることのない希望ある社会を目指して
23	11月13日(月)	福祉新聞	フードバンクを働く場に 障害者が集荷、仕分け、配送など
24	11月24日(金)	河北新報	路上生活者に心温まる料理
25	11月29日(水)	K H B 東日本放送	富谷市にフードバンク設置
26	11月30日(木)	河北新報	余剰食品は富谷市役所へ フードバンク設置
27	12月1日(金)	エキナカ大学 パンフレット	全国初「フードバンク×障害者の就労支援」の取り組み
28	12月4日(月)	福祉新聞	東北労金が仕事発注 障害者も客も喜ぶ活動に
29	12月9日(土)	富谷市手をつなぐ育成会 ブルーベリー通信	就労支援事業所とは
30	12月11日(月)	ラジオ3	モーニングシャッフル内 Cool choice
31	12月14日(木)	ラジオ3 再放送	モーニングシャッフル内 Cool choice
32	1月1日(月)	杜の伝言板 ゆるる 1月号	新しい寄付のカタチが見えてきた?! センダイほろ酔い寄付キャンペーン実施報告
33	1月1日(月)	リビング仙台	「0円キッチン」上映会について
34	1月17日(水)	河北新報	フードバンクに備蓄食無償提供(ユアテック)
35	1月17日(水)	河北新報	私の道しるべ 地域つなぐ河北新報 120年周年企画 東北の若者8人「居り合い」の文化大切に
36	1月19日(金)	仙台放送	夕方ニュース県内版 ふとどばんく東北 A G A I N のドキュメンタリー

37	2月1日(木)	杜の伝言板 ゆるる2月号	「復興」の先を考える ミーティング in 仙台
38	2月3日(土)	宮城テレビ	The Soul~私の美学~
39	3月24日(土)	リビング仙台	食品ロスを減らすために私たちにできること

## 2.7 政策提言

- 仙台市長選立候補者 全3名へ公開質問状『生活困窮者への施策について』提出

## 2.8 行政との意見交換

- 8月25日(金) 仙台市各局との「フードバンク・フードドライブに関する意見交換会」  
健康福祉局 保護自立支援課, 障害企画課, 障害者支援課, 高齢企画課, 健康政策課, 子供未来局 子供家庭支援課, 危機管理室 防災計画課, 経済局 農政企画課, 地域産業支援課
- 9月5日(火) 仙台市保護自立支援課との「これからの連携の仕方についての意見交換会」

## 2.9 計画と実施状況

項目	目的	計画内容	実施内容
生活困窮者に対する食糧支援	生活困窮者が増加する一途をたどる今、よりいっそう生活困窮者に対する食糧支援を拡充し、限られた人員・予算の効率的運用を進め、食糧支援総重量5トンを目指します。	被災困窮者支援 ・被災困窮者へ直接の食糧支援 ・被災困窮者が住む地元団体への食糧支援 ・仮設住宅の茶話会などコミュニティ形成のための食糧支援	・延べ13,027人への食糧支援 実施 (昨年度比 1.3 倍増) ・1,200件の食糧支援 実施 (昨年度比 1.2 倍増)
		個人への食糧支援 ・生活困窮者の個人への食糧支援 ・必要な支援につなぐソーシャルワーク ・各専門機関との連携	
		連携団体への食糧提供 ・困窮者支援、炊出し、ホームレス支援、子ども食堂、学習支援など生活困窮者支援をおこなっている団体への食糧提供	・連携団体 102 団体に増加
		地域福祉団体への食糧支援 ・障害者施設、福祉イベントへの食糧提供	

食糧 集め	必要としている方へ食糧支援できるように常に安定した量の食品を寄贈いただける取組をおこなう	企業への取組み ・定期的に食糧支援いただける連携企業を増やす	・一般企業からの食糧寄贈 41 社に増加 ・フードドライブやマスコミ掲載による呼びかけ
		個人への取組み ・フードボックスの設置 ・各イベントでの呼びかけ	・富谷市役所で県内初のフードボックス設置 実施 ・フードドライブやマスコミ掲載による呼びかけ
啓蒙・ 啓発	多くの方に、生活困窮者がおかれている状況や、食品ロスの現状を知ってもらいながら、フードバンク活動の必要性と意味を理解してもらう取組をおこなう	・各イベントや講演等での活動紹介 ・各メディアでの活動紹介 ・チラシ、パンフレットなどを活用した広報活動 ・各専門機関をまわっておこなう広報活動 ・HP、フェイスブックなどを活用した広報活動	・講演会活動 計 11 回 ・マスコミメディア掲載 計 39 回 ・フードドライブ 計 9 回 ・チラシ配布 約 9,000 枚 ・フェイスブック 約 800 名フォロワー (昨年度比 約 450 名増)
他団 体との 連携 強化	他団体との連携を通じて、より効率的な支援活動を行います	・行政、各専門機関、団体との連携と協力 ・包括的支援ネットワークの構築 ・東北のフードバンクとの連携	・富谷市役所で県内初のフードボックス設置 ・仙台市 保護自立支援課との意見交換 ・仙台市 環境局との連携イベントの実施 ・東北の各フードバンク団体との連携 ・コープフードバンクとの連携 ・フードバンクふじのくにとの連携 ・セカンドハーベスト名古屋との連携
データ 収集	支援記録、食品提供、食品寄贈などのデータを取り、社会課題を数値化するとともに、フードバンクの必要性や政策提言にいかしていく	・要支援者の生活状況などの個別記録 ・食糧品提供記録 ・食糧品寄贈記録 ・食糧品の取り扱い重量	・支援データ収集の整備 ・寄贈データ収集の整備 ・立命館大学(ゼミ生)と協働で、支援データ、在庫管理、就労支援の効率化を図るシステム開発 ・丸紅基金助成を受け IDP との「ユニバーサルな在庫管理システム」の開発に向けて着手
活動 資金 集め	持続可能・継続可能かつ、より広く多くの生活困窮者への支援活動ができるように、活動資金を集める取組をおこなう	・個人会員を増やす取組み ・企業、団体会員を増やす取組み ・各イベントでの募金活動の実施 ・各助成金の活用	・助成金 計 3,350,000 円 ・寄付金 計 1,768,811 円 ・フードドライブ毎に募金箱設置 22,121 円
政策 提言	フードバンクの専門家という立場から、現状を伝えると共に社会課題に対する政策提言をおこなう取組み	・行政への要望書提出 ・行政との連携事業の実施 ・データ、支援記録の有効活用化	・仙台市長選挙立候補者へ公開質問状提出 ・仙台市 保護自立支援課との意見交換 ・仙台市 環境局との連携イベントの実施



職員 研修	食糧支援、他団体との連携、包括的支援をおこなうためのソーシャルワークスキル、専門知識を得るための職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種、研修会、勉強会への参加</li> <li>・他のフードバンクとの意見交換会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンク活動にかかわる研修 計 11 回参加</li> <li>・他のフードバンク団体との意見交換会 実施</li> </ul>
業務 整備	各マニュアル整備、各書類の整備、各データフォーマットの整備などをおこない、作業の効率化と、体制基盤を整備する取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各マニュアルの整備（支援する際のマニュアルなど）</li> <li>・各書類（同意書、協定書、支援要請書、会員名簿、ボランティア名簿、誓約書など）の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧支援&amp;寄贈申請書の整備</li> <li>・同意書、協定書、ボランティア名簿、誓約書、会員名簿の整備</li> <li>・ボランティア、連携団体とのメーリングリストの整備</li> <li>・在庫管理等のシステム導入にむけて着手</li> </ul>

### 3 就労移行支援事業「就労サポートセンターあがいん」

#### 3.1 概要

当法人は、フードバンク活動に加えて、今年度の5月1日より障害のある方の就職や復職をサポートする就労移行支援事業『就労サポートセンターあがいん』を開所しました。この、フードバンク活動を通じた就労支援のあり方は、全国初の取組みで、職員全員が共に考え工夫を凝らしプログラム内容をつくってきました。私たちは、フードバンク活動に加えて、フードバンク活動を通じた就労支援事業に取り組むことで、障害のある方の社会参加、地域参加、障害の有無にかかわらず、“誰も取り残されることのない”誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指してきました。

あがいんの最大の特徴は、座学形式のプログラムに加えて、フードバンク活動を通じたプログラムがあることで、フードバンク活動を通して、人や社会との豊かな繋がりを肌で感じられるプログラム内容にあります。プログラムは大きく4種類あり、「職場でいかせる役に立つ より実践的な就労に向けたプログラム」「実際に誰かの役に立っているが実感できるフードバンクを通じた社会参画型プログラム」「多くの人や社会と出逢い 視野と可能性が広がる 暮らしに役立つプログラム」「仲間がいることの喜び 楽しさ 安心 励み お楽しみ会」があり、全てのプログラムにおいて“誰かのために”という姿勢を軸とし、社会参画や人と交わることの楽しさを体感できる内容を大事にしてきました。フードバンクを通じたプログラムでの作業内容は、食糧の受取り、食糧の箱詰めやお届け、在庫整理など、ほど全ての活動を障害のある方1人1人の障害特性に合った方法で取り組んでいます。この中には、計算、記入、挨拶、地図、対人スキル、パソコンスキル、正確な読み取り・書き取り、コミュニケーションなどの、非常に多くのトレーニング内容も含まれています。日々、フードバンク活動を通して、職員や利用者という枠を越えて皆が「今、食べるものがなくて困っている方の力になりたい」という思いで活動を共にしています。普段、自分たちが食糧を提供している「子ども食堂」や「ホームレス支援団体」に手伝いに行き、普段、自分たちが集め在庫管理し提供している食糧が、実際にどのように役に立っているかを知り肌で感じることもプログラムの一環で大事にしていることです。

私たちはプログラムを通して、障害のある方々が「ありがとうね！またよろしくね！」と直接お礼を言われることの多いフードバンク活動での経験を通して、自分自身の存在意義を再確認し自信に繋がればと願うと同時に

に、誰かの役に立つことの喜びや働く楽しさ、社会参画して人と接することの楽しさ、そして自分を必要としている人がいるという思いから湧く責任感を感じることができ、就職や復職につながるサポートをしていきたいと考えています。また、それだけでなく、就労サポートセンターあがいんでの経験が、その方の今後の人生において、より豊かな人間関係や社会との繋がりが築けるきっかけになれば、それ以上に嬉しいことはないと考えています。

先日、あがいんを見学に来られたお母さんとの話です。知的障害がある高校 2 年生のお子さんの事情をお聞きすると、今、子どもと卒業後の進路を考えているところで、子どもといろんな事業所を見学しているとのこと。その内に段々と親の方が楽しくなり興味が深まり、今、さまざまな支援のあり方などを各事業所を見学しながら、進路や自分の子どもにとってどんな環境が合っているのかを考えているとのことでした。あがいんのプログラムで大事にしていることや、私たちの思いをご説明したところ、「私たち親は親亡き後に、自分の子どもがどうなるかが心配でならない。正直、子どもの将来が心配で心配で夜も寝れない時もある。生きていくためには確かにお金も必要。だけど、親として我が子に、もっと望んでいるのは、この子が社会の中で、たくさんの人に囲まれて助け合いの中で、楽しく生きていけること。あがいんさんではそれを大事にしている。他の事業所に無いものが在る。見学にこれほど本当に良かった。」と涙を流しながらお話されていました。働くことは社会で生きること、そのものです。阪神淡路大震災の時も大きな課題となりましたが、東日本大震災の時も、地域との繋がりが助けを出せたり相談ができる人がいない障害者や社会的弱者と言われる方への支援は遅れに遅れ、行き届かないこともあったことや、障害理解が得られず避難所で生活することさえできなかった障害者が続出したように、同じことを繰り返さないためにも、人との繋がりが地域社会との繋がりを築いていくことは、結果として豊かで安心な暮らしに直結すると考えています。当団体では、フードバンク活動を、障害がある方が社会参加することができる場やツールとしても活用していくことで、生活困窮者支援だけにとどまらず、障害のある方が社会参加できる機会を創出し、より多くの方に障害理解を促進していくことで、障害があっても働きやすい社会の実現や“誰も排除されることのない”共生社会の実現を目指します。

そして、就労サポートセンターあがいんを開所するにあたり、昨年度まで常勤 1 名、非常勤 2 名だった事務局でしたが、新たに 4 名を採用し、5 月 1 日からは常勤 4 名、非常勤 3 名の計 7 名の事務局体制で活動をおこなってきました。今年度 1 年間は、特に職員全員がフードバンク事業と就労移行支援事業を兼務して活動できるように、福祉とフードバンクの両方に通じる基本姿勢である、本人の声に耳を傾けて聞き、その人に寄り添ったサポートができるようになるための、関係を築く学びをメインとし深めてきました。これからも、本人の声に耳を傾け、職員と利用者という支援者・被支援者という関係ではなく、人たい人との関係を築きながら、共にフードバンク活動をおこなう仲間という関係だからこそ可能となる、より社会で生きる力を養える質の高いプログラムやサポートができればと考えています。

また、全国初のフードバンクと就労支援というマッチングなので、どのようにフードバンク活動を通したプログラムを築き上げ、充実させていくか、また、どのようなプログラムにしたなら、“誰かのために”を軸とした、誰かの役に立つことの喜びや、人と接することの楽しさを体験できるプログラムをつくることができるか、そして常時依頼が入る食糧支援の依頼を計画的にプログラムに盛込んでいくか、それぞれの作業のユニバーサル工程表の作成、食糧品在庫の陳列方法・分け方、個人情報伏せた状態でのデータ入力作業、食糧支援申請書の共有の仕方など、そして座学形式のプログラムの内容もどのように充実させるか等、0 から皆で考えて創り上げてきました。1 年かけても、まだまだ案や意見が実行できていないことも多く途中ではありますが、大枠のプログラム体制が整い。今では、県外のフードバンク団体や、障害者支援団体、議員の見学も多くなっています。

そして、あがいんを必要としているスタッフ（利用者さん）探しにも力を入れてきました。みんなで計 150 箇所以上の機関へ外回りを行い、さまざまなイベントに参加したり、講演活動をおこない、A4 サイズの団体パンフレットを 9,000 枚、二つ折りパンフレットを 20,000 枚を配布しました。また、フードバンク活動の際もあがいんの活動を広報することで、少しずつ認知度が上がり見学者や問合せは増えています。その多くが、就労あがいんでは、フードバンク活動をしている団体ということを知って来ていることから、フードバンク活動をしている AGAIN と就労サポートセンターあがいんの両面が、市民の中でも繋がり合って認識されつつあるように思います。しかし、今年度のスタッフの利用登録人数は 5 人という状況で、運営は極めて厳しい状況が続いています。

そういった事情から、これからも就労移行支援事業を起動にのせて継続的に運営していける体制を築くことを最優先と考え、9 月中旬から、断腸の思いではありましたが、これまでおこなってきたフードバンク活動の一部を縮小するという決断をおこないました。具体的には、スポーツ少年団、生活困窮していない福祉施設などの困窮性の低い方々への食糧提供を一旦停止させていただき、緊急性の高い個人の生活困窮者に支援を絞らせていただきました。また、食糧のお届けも、これまでほぼ毎日お届けしておりましたが、10 月からは月曜と木曜の週 2 日に絞らせていただき、どうしても緊急で必要な際は、パートナー（職員）かボランティアがその都度お届けする、という体制に変えました。そのことでパートナーに時間ができ、より一層、あがいんのプログラムの充実や、広報活動に力を入れられる体制を整備してきました。

まだ定員には余裕があるので、体験や見学、利用は大歓迎です。これからも、引き続き外回りに力を入れ、あがいんを必要としているスタッフ（利用者さん）に情報を届けていきたいと思っています。

### 3.2 就労サポートセンターあがいんの様子



#### 食糧提供している団体の活動を学ぶ

普段、自分たちが在庫整理し提供している食糧が、実際にどのように活用されているかを知ることで、誰かの役に立っていることを肌で実感。



#### 自分たちが食糧提供している団体を見学

食糧提供している団体へ見学やお手伝いに行き、実際にどのように活用されているかを知る事で、誰かの役に立っていることを肌で実感。



### フードドライブ

ご家庭にねむっている食糧を集める活動『フードドライブ』を、様々なイベントで実施。来場者に活動を紹介したり、食品の受付をしたり、チラシを配ったり。色んな人と交流する機会になっています。



### 食糧の受取り

個人の方からの食糧寄贈の対応や、企業に食糧品を受取りにあがるなどをおこない、より社会参画し、さまざまな方と接する経験を多く積んでいます。



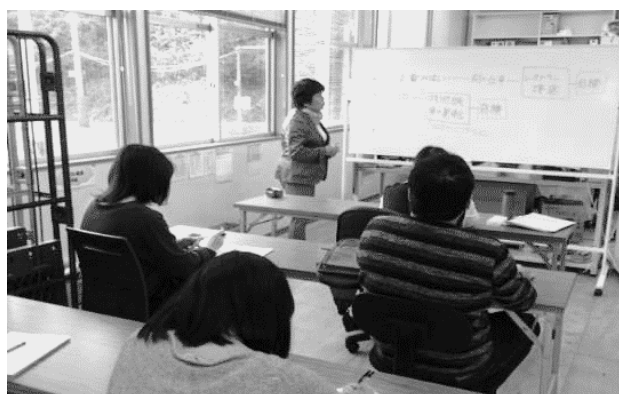
### 食糧の箱詰め

『食糧支援要請書』の中身を見ながら、食糧を必要としている方の家族構成・健康状態・ライフラインなどを想像しながら、適切な食糧を箱詰めします



### 食糧をお届け

炊き出し団体、ホームレス支援団体、子ども食堂、行政、施設などへ食糧をお届けに行きます。直接「ありがとう」と言われることが多く、自分が人の役に立っていることを肌で感じ、やりがいも得られる貴重な経験です。



### 外部講師を招いての講座

外部から、さまざまな講師をお招きし、企業のお話、ビジネスマナー、仕事について等の講座を開催。現場の生のお話を聞くことで、働く上で大切な事を学びます。



### 企業見学

多種多様な職場を訪問。仕事内容や、働く上で大切なこと等を、企業の方から説明を受け、実際に障害のある方が働いている現場を見学します。自分に合った仕事、やりたい仕事を見つける目的もあります。社会を知り、自分を知り、仕事を知る事で、将来の就労に向けたイメージを創ります



### 料理教室

食べることは生きること！健康的な身体を自己管理していく為にも、食事は大事です。献立・買出・調理など段取りや食育学習・交流を含めた機会を設けています



### 障害当事者の話を聞く

サロン活動や様々な活動をしている障害当事者をお招きし、活動紹介、地域生活の仕方、仕事の仕方など、様々な生の知恵を学び、視野を広げる



### 夏のバーベキュー

仲間がいることの喜び・楽しさ・安心・励み。事務所の広い駐車場で、フードバンク活動のボランティアさんや、理事さんも含め、みんなでバーベキューなどの年間を通して季節行事を楽しんでいます。



### お誕生日会

仲間に誕生日の方がいる月には、みんなで料理をして、誕生日のお祝いをします。この日は、ホットケーキでデコレーションケーキを作って食べました

## 3.3 研修参加

	日時	研修名	場所	参加者
1	5月27日(土)	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 1回	リハビリテーション病院	全員
2	6月10日(土)	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 2回	リハビリテーション病院	全員
3	6月14日(水)	富谷&黒川郡 相談支援事業所会議	ひだまりの丘	小椋
4	6月16日(金)	算定基礎研修会	まほろばホール	鈴木
5	6月22日(木)	就労移行支援事業所等 連絡会議	福祉プラザ	小椋
6	7月1日(土)	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 3回	リハビリテーション病院	全員
7	7月8日(土)	みちのフォーラム 2017	パレス松洲	茶谷・金
8	7月9日(日)	みちのフォーラム 2018	パレス松洲	小椋・茶谷

9	7月22日(土)	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 4回	リハビリテーション病院	全員
10	7月25日(火)	よめごと会議	黒松市民センター	茶谷
11	7月29日(土)	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 5回	リハビリテーション病院	全員
12	8月21日(水)	盛岡 就労支援事業所パノラマ	AGAIN	全員
13	8月25日(金)	実務者ネットワーク	宮城野区中央市民 C	金
14	9月14日(木)	介護保障を考える弁護士と障害者の会	福祉プラザ	児玉
15	9月16日(土)	宮城高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	仙台市医師会館	金
16	9月20~22日	就業支援基礎研修	障害者職業センター	児玉・金
17	9月28日(木)	黒松自立支援協議会 よめごと会議	黒松市民センター	小椋
18	10月20日(金)	アビリティージャスコ	ジャスコ	児玉、金
19	12月5日(火)	就労支援事業所による障害者就労の今後を考える	TKP ガーデンシティ仙台	鈴木、茶谷 児玉、金
20	12月21日(木)	第3回 就労支援事業所等連絡協議会	福祉プラザ	鈴木、金
21	12月26日(水)	虐待の予防と対応の基本について	富谷市役所	茶谷、児玉
22	12月27日(木)	仙台リハ ピアサポーター養成講座	仙台リハビリテーション	全員
23	1月18日(木)	統合失調症の理解と特性に応じた対応について	富谷市保健福祉総合支援センター	全員
24	1月19日(金)	基盤強化 職員研修「自分ごと」から社会につながる	あがいん事務所	全員
25	1月20日(土)	基盤強化 職員研修「自分ごと」かた社会につながる	あがいん事務所	全員
26	1月22日(月)	障害者雇用セミナー-実例から学ぶ採用から定着まで	福祉プラザ	茶谷、鈴木、金
27	1月23日(火)	仙台リハ ピアサポーター養成講座	仙台リハビリテーション	全員
28	1月26日(金)	就労移行支援事業 スイッチ仙台 見学	スイッチ仙台	茶谷、児玉、金
29	1月31日(水)	WRAP (元気回復行動プラン)	あがいん事務所	全員
30	2月14日(水)	高次脳機能障害を知ろう 相原勇さん講師	あがいん事務所	全員
31	2月16日(金)	障害者就労セミナー ハローワークの紹介、利用方法	富谷中央公民館	金
32	2月18日(日)	高次脳機能障害者サロン in 利府 失語症について	利府町コミュニティセンター	茶谷、児玉、金
33	2月21日(水)	トリセツの作り方 高次脳障害当事者 日下さん	あがいん事務所	全員
34	2月22日(木)	夜回りグループの炊出し活動への参加と講話	みやぎ NPO プラザ	小椋、茶谷、鈴木
35	2月22日(木)	NPO 法 改定貸借対照表	市民活動サポートセンター	茶谷、鈴木
36	2月23日(金)	基盤強化 職員研修	あがいん事務所	小椋、茶谷、鈴木、児玉
37	3月13日(火)	障害福祉サービス等報酬改定 説明会	宮城県庁	茶谷、金
38	3月13日(火)	基盤強化 職員研修	あがいん事務所	全員
39	3月20日(火)	成年後見・法人後見 研修会	富谷市保健福祉総合支援センター	児玉、金
40	3月23日(金)	サービス管理責任者 情報交換会	宮城県庁	小椋
41	3月23日(金)	指定障害福祉サービス事業者等 集団指導	宮城県庁	小椋



42	3月27日(火)	地域ケア よろず懇話会 当事者主体は当事者の声や思いを聴くことからはじまる	イズミティ 21	小椋、茶谷
43	3月28日(水)	総会運営講座	みやぎ NPO プラザ	茶谷、鈴木
44	3月28日(水)	就労支援センターつなぐ 交換研修	就労支援センターつなぐ	金
45	3月29日(木)	企業と就労支援事業所が連携して進める障害のある人の雇用と働きやすい職場作り	仙台国際センター	小椋、児玉、金

### 3.4 計画と実施状況

項目	目的	計画	実施
開所準備	新たに就労支援事業の事業所の準備を進め、自立できる体制整備と安定したフードバンク事業の推進に加え、働くことの喜びを体験しながら就労に向かってトレーニングできる就労支援の新たな付加価値の創造に取り組んでゆきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年5月1日開所予定</li> <li>・職員人員確保（サービス管理責任者、就労支援員、生活支援員、職業指導員）</li> <li>・定員20名の就労移行支援</li> <li>・利用者20名を目指します</li> <li>・フードバンク関連業務のほか、アップサイクル事業など多角的・安定的な事業を進めます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月1日「就労サポートセンターあがいん」開所</li> <li>・人員の確保(7名体制)</li> <li>・今年度 利用者5名</li> </ul>
就労支援	障害や様々な悩みを抱えている方々に対して、社会人としての自覚、自立ができるようにフードバンク活動のプログラムと、座学形式のプログラムの二本柱のプログラムを通して、継続的なトレーニングをおこなうことで、復職・就労の実現を目指します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人にあったプログラムの提供と、その方に合った支援の実施</li> <li>・サービス計画書の作成</li> <li>・3ヶ月に1回のモニタリングの実施</li> <li>・求人情報収集</li> <li>・就職活動支援、面接同行、職場見学会の実施</li> <li>・各企業との連携、障害理解促進の働きかけ</li> <li>・外部の専門化をプログラム講師として協力いただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国初のフードバンク活動を通じた就労移行支援事業プログラム内容の検討と整備と実施</li> <li>・毎月1回の職場見学会 実施</li> <li>・外部講師を招いてのプログラム</li> <li>・障害当事者を招いてのプログラム</li> </ul>
広報活動	フードバンク活動を通して“誰かの役に立つ”経験を通して、働くことの喜びを感じられる当事業所の特徴を活かし、就職を目指す障害のある方々に知ってもらうと共に、広く受け入れられる体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各イベントや講演等での活動紹介</li> <li>・各メディアでの活動紹介</li> <li>・チラシ、パンフレットなどを活用した広報活動</li> <li>・各専門機関をまわっておこなう広報活動</li> <li>・HP、フェイスブックなどを活用した広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つ折りパンフ 約2万枚配布</li> <li>・約150箇所への外回り</li> <li>・就労サポートセンターあがいんの部ログ開設</li> <li>・フェイスブックでの活動配信</li> </ul>

職員 研修	しっかりと就労や復職への実現を支援できるスキルを身に付けるための研修の実施。障害理解に対する研修の実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労プログラムの策定と実施にあたっての職員研修</li> <li>・就職支援スキルの向上をはかる研修参加</li> <li>・各種制度、就労支援スキル向上の研修参加</li> <li>・障害理解を深める研修参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計 45 回の職員向け研修</li> <li>・他の就労移行支援事業所の見学</li> <li>・障害当事者を招いた講座、障害理解</li> <li>・JPF の基盤強化助成を受け、谷口さんを招いて定期研修会を実施</li> </ul>
----------	--	--	--

## 4 組織体制等

### 4.1 計画と実施状況

事業	事業目的	活動内容	実施
基盤 整備	法人全体の基盤を整備することで、日常業務を円滑かつ正確に遂行する基盤を整備すると共に、職員が働きやすい環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与計算ソフトの導入</li> <li>・顧問税理士の導入</li> <li>・NPO 総合保険への加入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与計算ソフトの導入</li> <li>・顧問税理士の導入</li> <li>・NPO 総合保険への加入</li> </ul>
	昨年度までは、常勤 1 人体制であったが、今年度から常勤 4 名体制になるため、職員の役割分担の明確化と、事務局体制の強化に取り組み、より多くの方々へ支援できる体制を築いていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局長という役割を担う者の選任</li> <li>・各業務の役割分担化</li> <li>・定例の事務局会議の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週(火)16:30～事務局会議の開催</li> </ul>
	さらなる事業体制の整備と役員・会員の役割分担の明確化を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会の定期開催</li> <li>・交流会の実施</li> <li>・理事の役割の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会の定期開催</li> <li>・理事と事務局職員の親睦会</li> </ul>
	活動に協力していただき、新たな会員・ボランティアの募集を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員募集の取組み</li> <li>・ボランティア募集の取組み</li> <li>・ボランティア名簿の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア募集の呼びかけ</li> <li>・常時 10 名のボランティア参加</li> <li>・ボランティア名簿の整備</li> <li>・ボランティア用メーリスの整備</li> </ul>



## 4.2 会員・ボランティア

### 4.2.1 会員数

- 個人会員：18 名
- 法人・団体会員：11 団体

	法人・団体会員
1	社会福祉法人 わらしべ舎
2	同和警備(株)
3	生活協同組合あいコープみやぎ
4	データコム株式会社
5	みやぎ生活協同組合
6	(特非) ほっぷの森
7	(一社) パーソナルサポートセンター
8	(一社) アート・インクルージョン
9	(特非) ワンファミリー仙台
10	(公財) 日本クレジットカウンセリング協会
11	有限会社 司製茶仙台

- 賛助会員：個人 1 名

### 4.2.2 登録ボランティア

- 実働者数：10 名

## 4.3 情報発信

- HP (「NPO 法人 ふうどばんく東北 AGAIN」で検索 <https://www.foodbank.or.jp/>)
- フェイスブック (「NPO 法人 ふうどばんく東北 AGAIN」で検索 @foodbank.tohoku.again)
- ブログ (「就労サポートセンターあがいん」で検索 <http://blog.canpan.info/again/>)

## 4.4 役員

役職	氏名
代表理事	地主 雅信
副代表理事	立岡 学
理事	小澤 義春
理事	齊藤 きえ子
理事	白木 福次郎
理事	武田 耕嗣
理事	新沼 鉄也
理事	野崎 明
理事	矢野 由美子
監事	吉野 潤一

## 4.5 事務局

役職	氏名
管理者、サービス管理責任者	小椋 亘
生活支援員	鈴木 美保子
職業指導員	茶谷 小百合
就労支援員	金 てるみ
生活支援員	児玉 みゆき
職業指導員	遠藤 信彦
就労支援員	齋藤 きえ子

## 5 理事会・総会

### 5.1 通常総会

平成 29 年 6 月 27 日（火）19 時から データコム株式会社社会議室にて

### 5.2 理事会

	開催日時	開催場所
第 1 回理事会	平成 29 年 4 月 4 日 19 時	データコム会議室
第 2 回理事会	平成 29 年 5 月 13 日 10 時	富谷事務所
第 3 回理事会	平成 29 年 6 月 27 日 19 時	データコム会議室
第 4 回理事会	平成 29 年 10 月 7 日 19 時	データコム会議室

第 5 回理事会	平成 29 年 12 月 24 日 19 時	データコム会議室
第 6 回理事会	平成 30 年 2 月 24 日 19 時	データコム会議室

## 6 助成金・寄付金

### 6.1 助成金

助成金	金額
宮城県 フードバンク活動支援事業補助金	500,000
WE21 ジャパン・みどり	250,000
社会福祉法人 丸紅基金	1,800,000
東北ろうきん復興支援助成金	300,000
公益信託 仙台銀行まちづくり基金	300,000
ジャパン・プラットフォーム 2018年・宮城 基盤強化支援事業	200,000
合計	3,350,000

### 6.2 寄付金

企業・団体名	金額
一般社団法人 WATALIS 様	15,346
(株)サイコー 様	10,000
野ばらの会 様	127,537
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所 様	100,000
(株)蔵王サプライズ 様	500,000
認定特定非営利活動法人 WE21 ジャパン・みどり 様	42,215
クラウドファンディング (READYFOR(株)を通して)	822,115
個人のみな様	151,598
募金箱設置	22,121
合計	1,790,932

#### フードバンク活動にご協力をお願いいたします

年会費／賛助会員 1 口 1,000 円～、個人会員 1 口 5,000 円～、法人・団体会員 1 口 10,000 円～

振込み先／ゆうちょ銀行. 八一八支店. 普通 2267021

名 義／特定非営利活動法人 ふうどばんく東北 AGAIN

以上